

参 考

# 平成28年度事業概要報告書

平成29年6月

公益社団法人 中越防災安全推進機構

# 目 次

---

【公益事業】	
I. 防災安全学問研究の推進・創造	
II. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成	
1. 中越市民防災安全大学の運営	3
2. 「内部人材・地域経営組織の育成」に関する実践研究	5
3. 被災者・被災地支援	9
III. 防災安全情報・技術振興	
4. 中越メモリアル回廊の維持・運営	14
4-1. 長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	16
4-2. おぢや震災ミュージアム そなえ館	27
4-3. やまこし復興交流館 おらたる	35
4-4. 川口きずな館	41
4-5. 妙見メモリアルパーク	45
4-6. 木籠メモリアルパーク	45
4-7. 震央メモリアルパーク	46
5. 中越沖地震メモリアル施設運営	47
6. ふるさと新潟防災教育推進事業（学校サポート）	52
IV. 地方の持続可能性の維持・獲得	
7. 首都圏プラットフォーム	57
8. 長期インターンシッププログラム	58
9. 新たなインターンシッププログラムの開発	61
10. 「外部人材の確保・育成」に関する実践研究	63

---

---

【収益事業】

---

V. 地域防災力向上支援業務

---

11. 新潟県地域防災まちづくりプログラム事業	66
12. 地域防災力強化支援事業	66
13. 避難所運営体制連絡会（検討会）運営委託業務	67
14. わが家の防災力向上事業	67
15. Iot を活用した地域防災システムに関する実証実験試行及び検証業務	68

---

VI. 地域づくり活動支援業務

---

16. 移住者受入トップランナー支援事業	69
17. にいがたライフスタイルカフェ	71
18. 移住相談員設置業務	73
19. 新潟県地域おこし協力隊研修業務	74
20. 移住者受入モデル事業コーディネート業務	75
21. 新発田市地域おこし協力隊導入コーディネート業務	78
22. 「（仮称）片品村交流連携拠点」開業支援業務	80
23. 花咲地区農地活用可能性調査実施業務	80
24. 胎内市地域おこし協力隊フォローアップ業務	81
25. おぐろ地区将来ビジョン作成業務	81

---

## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

### 1. 中越市民防災安全大学

#### 第11期 中越市民防災安全大学を開講

平成18年度から開講している「中越市民防災安全大学」は11年目を迎え、今期は初の試みとして講座期間をこれまでの13日講座から5日間へ大幅に短縮、受講生のスケジュール管理に配慮したカリキュラム構成とした。受講の費用面でも負担軽減に配慮し、受講者側の参加性を高めて実施した。短期集中型となったことで受講者側からも好評に受け止められ、SNS等の告知発信を経て長岡市外や新潟県外からの受講申込みも見受けられた。

講座は8月20日から9月4日にかけての各週末に5日間に延べ20講座に渡って開講し、47名が新たに中越市民防災安全士として登録され、第1期からの延べ人数で540名となった。

講師陣には県内外から著名な専門家を招き、災害のメカニズムや復旧・復興のプロセス、市民活動の様子など幅広いテーマで講義が行われた。座学だけではなく、中越地震の被災地視察や、消防署での普通救命講習、災害食実演などの実技も取り入れ、防災に関する幅広い知識を習得する機会となったほか、今年度も講義で得た知識や感想等を受講生同士で共有し、避難所運営ワークショップの体験などを通じて、より自分たちの地域での活動を具体的にイメージしてもらえるような機会を多く設けた。

今後も市民防災力向上の一役を担う防災リーダーとしての中越市民防災安全士の活躍がますます期待されている。

日程・会場	講座内容	講師
8月20日 きおくみらい	入校式・オリエンテーション ・オリエンテーション ・中越市民安全士への期待	中越防災安全推進機構 中越市民安全士会
	災害時の情報発信 ・災害時の情報発信と収集・活用	東京大学大学院情報学環・ 総合防災情報研究センター 関谷 直也氏
	地域の防災 ・自主防災会の取り組み	青葉台3丁目自主防災会 神田英一朗氏
	防災ワークショップ ・防災ワークショップ体験	中越防災安全推進機構
8月21日 防災センター	土砂災害への対策 ・土砂災害発生の仕組みと防災対策	新潟大学 卜部 厚志氏
	災害時の行動・対応① ・生活再建の基礎知識	(一社)減災復興支援機構 木村 拓郎氏
	避難所運営ワークショップ ・ワークショップ演習「避難所開設」「避難所運営」	(一社)減災復興支援機構 宮下 加奈氏
8月27日 防災センター メモリアル回廊	普通救命講習 災害食実演「災害時の調理(パッキング)」 中越大震災を知る①「メモリアル回廊視察見学」	長岡市消防本部 中越市民防災安全士会 石黒みち子氏 中越防災フロンティア
9月3日 防災センター	中越大震災を知る② ・近年の災害と中越大震災	長岡造形大学 澤田 雅浩氏
	水害への対策 ・水害発生の仕組みと防災対策	(株)エコロジーサイエンス 樋口 勲氏
	災害時の避難行動 ・避難と避難行動	群馬大学 大学院理工学府 金井 昌信氏
	防災の最前線 ・大地震時代への備え	防災ジャーナリスト 吉村 秀貴氏

## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

9月4日	地震災害への対策 ・地震の仕組みと防災対策	防災科学技術研究所 坪川 博彰氏
	災害時の行動・対応② ・災害ボランティア	中越防災安全推進機構
	長岡市の防災 ・長岡市の防災対応と災害対応	長岡市危機管理防災本部
	卒業式・防災士試験（希望者のみ）	長岡市危機管理防災本部 中越防災安全推進機構



## II. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

### 2. 「内部人材・地域経営組織の育成」に関する実践研究

#### (1) 森林資源に関わる勉強会の開催・実践

##### ① 森の学校

小国森林公園をフィールドとした「森の学校」を開催。今後継続的に実施され、森林資源の管理・活用ができる人材育成の場が定着するように取り組みを進めていく。

○日時：10月16日(日)、11月20日(日)9:00～16:00

○会場：長岡市おぐに森林公園

○内容：森の仕事体験（選木、伐採、刈り払い、玉切り）



##### ② 木エスクール「世界にひとつのバターナイフづくり」

小国森林公園をフィールドとした森林利用の実験として、地元の木工作家に先生となっていたとき、木エスクールを実施した。

○日時：12月4日(日) 13:00～16:00

○会場：長岡市おぐに森林公園みんなの体験館



## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

### (2) エネルギー自給に関わる研究

4回シリーズで、暮らしのエネルギーを見直すワークショップを開催。自然エネルギー利用を学ぶ場として、継続的に実施できる体制を今後構築していく。講師 武樋孝幸 さん（武樋総研）

#### ① 第1回「電気の使い方の見直しと発電を学ぶ～ミニソーラーシステムを作ろう～」

○日程：6月4日（土）10:00～15:00

○会場：里山ハウス（長岡市川口木沢 743）

○内容：

- ・講義「自然エネルギーを無理なく、楽しく暮らしに取り込む」

本当に必要な電化製品って何だ？、「買う電気」と「作る電気」の両立、電気を使わなくても賄えるもの

- ・実習「ミニソーラーシステム自作」

太陽光パネルシステムの設計と組み立てを行います。照明、携帯、PCの充電等は十分できるシステムです。



#### ② 第2回「太陽熱の使い方を学ぶ～ソーラークッカーを作ろう！～」

○日程：7月2日（土）10:00～15:00

○会場：里山ハウス（長岡市川口木沢 743）

○内容：

講義「太陽熱を活かす！」

- ・家庭でのエネルギー消費の半分を占める「熱エネルギー」の正体
- ・電気での、石油での、太陽熱での暖房給湯
- ・最新機器で太陽熱利用、アクティブソーラー
- ・家の作りやうは夏をむねとすべし、パッシブソーラー、そして冬は暖かく
- ・太陽熱の力を実感！ ソーラークッキング

実習「ソーラークッカー自作」

- ・ソーラークッカーの設計と組み立て

## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成



### ③ 第3回「冬を暖かく過ごすために～サーモグラフィで熱の流れを学ぶ～」

○日程：11月5日（土）10:00～15:00

○会場：里山ハウス（長岡市川口木沢 743）

○内容：

講義「電気を使わず暖かく冬を超える」

- ・熱は家の中をどう流れるのか

実験「熱の流れ」

- ・サーモグラフィを使って、熱がどう流れているのかを実際に見てみます

実験「様々な暮らしの工夫実験」

- ・薪ストーブ、火鉢、湯たんぽ、銀マット



## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

### (3) 野生動物の食肉に関わる勉強会の開催・実施

獣肉の活用に向けて、獣肉の流通のための法律や設備関連の調査、獣肉の商品としての検討、熟成肉・雪室熟成の研究を実施。今年度は、生ハムオーナーを募り「越後生ハム塾」を実施。任意団体「越後川口生ハム塾」で継続した取り組みを実施する。



## II. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

### 3. 被災者・被災地支援

#### ①熊本地震支援

中越地震がきっかけとなって設立された当機構では、中越地震での経験や知見を役立てるべく、これまでも東日本大震災をはじめとする災害被災地の支援を行ってきた。平成28年4月14日に起きた熊本地震では、初めての官民連携による支援の試みとして、長岡市とチーム中越の協働による支援活動を実施。本震直後の4月16日に先遣隊5名が現地入り。行政機関や避難所を回りニーズなどの情報収集のほか、中越のノウハウを生かした被災地支援として熊本市内を中心に約1か月（～5月9日）、避難所運営を中心とする支援活動を展開した。



これ以降、現地のニーズに応じ、チーム中越メンバーの適任者が適時、支援にあたっている。

一方、中越の地域復興支援員として活動してきた(公財)山の暮らし再生機構の佐々木康彦氏が西原村からの要請を受け、支援のため出向(8月～)。当機構としても、佐々木氏からの要請に対し助言や支援を実施中である。



## II. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

熊本地震の復旧復興とくに被災者の生活再建にあたって、復興学会中心でやっている「車座トーク」でも、阿蘇寄りの町村では、中越地震のことを教えてほしいという要望が寄せられた。

そこで、「新潟県中越大震災・復興検証報告書」「新潟県中越地震の3800日—復興しない被災地はない—」「震災復興が語る農山村再生」を、とくに被災で復興が大きな課題となりそうな自治体と県に配布、今後の持続的な被災地の支援への契機とし、中越の復興で大きな役割を果たした新潟県中越大震災復興基金や、復興の原動力となった官・民・中間支援組織という三極構造による中越の知見としての復興モデルを熊本地震被災地へ伝えた。

- 日程 平成28年8月24日(水)～26日(金)
- 訪問先 熊本県、益城町、西原村、南阿蘇村、御船町
- 参加者 新潟県県民生活環境部 山田副部長、遠藤震災復興支援課長、武田係長  
(公財)新潟県中越大震災復興基金事務局 風間主事  
(公社)中越防災安全推進機構 稲垣、玉木

### ■行程・訪問先

<p>熊本県庁 8月24日 14:00～15:00</p>	<p>知事公室 危機管理監 本田圭 危機管理課 課長補佐 鳥井薫順</p>	
<p>益城町役場 8月24日 15:40～17:00</p>	<p>都市計画課 審議員 西口博文 福祉課 審議員 姫野幸徳 復興課 復興推進係 係長 松本浩治 参事 大山治男 主査 上村修平 復興課 復興計画係 係長 藤田智久</p>	
<p>西原村役場 8月25日 9:30～10:30</p>	<p>副村長 内田安弘 熊本県県北広域本部総務部 振興課長 橋本誠也 震災復興推進室 佐々木康彦</p>	
<p>意見交換 8月25日 10:30～11:00</p>	<p>熊本大学名誉教授 徳野貞雄</p>	

## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

<p>南阿蘇村役場 8月25日 13:30~14:30</p>	<p>副村長 市原一生 総務課 課長 浅尾鎮也 審議員 桐原恵</p>	
<p>御船町役場 8月26日 10:00~11:40</p>	<p>総務課 課長 吉本敏治 総務係 係長 本田隆裕 地域・防災係 主幹 宮川一幸 企画財政課行政推進係 係長 島田誠也 福祉課社会福祉係 係長 本田恵美 商工観光課商工観光係 係長 鶴野修一</p>	
<p>御船町会食 8月26日 12:00~13:00</p>	<p>町長 藤木正幸 総務課 課長 吉本敏治 企画財政課 課長 藤本龍巳 総務課 総務係 係長 本田隆裕</p>	

### ■意見交換概要

- 随時の制度緩和により罹災証明や仮設入居の事務手続きの終わらず、先の見えない中で職員の肉体的、心理的負担が大きくなってきた
- 仮設住宅への入居完了は9月までずれ込む
- 復興基金の詳しい動きがわからない（マスコミからの情報が中心）
- 中越の事例のように、宅地の擁壁復旧や小規模農地復旧でも復興基金を活用したい
- 今後の復興へ向け、住民と行政の間にたつ中間支援が必要と考える⇒中越での経緯を参考にしたい
- 復旧や復興の動きの中で財源の多くが熊本市優先になるのではと危惧している

### ■益城町



## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成



■西原村



■南阿蘇村



■御船町



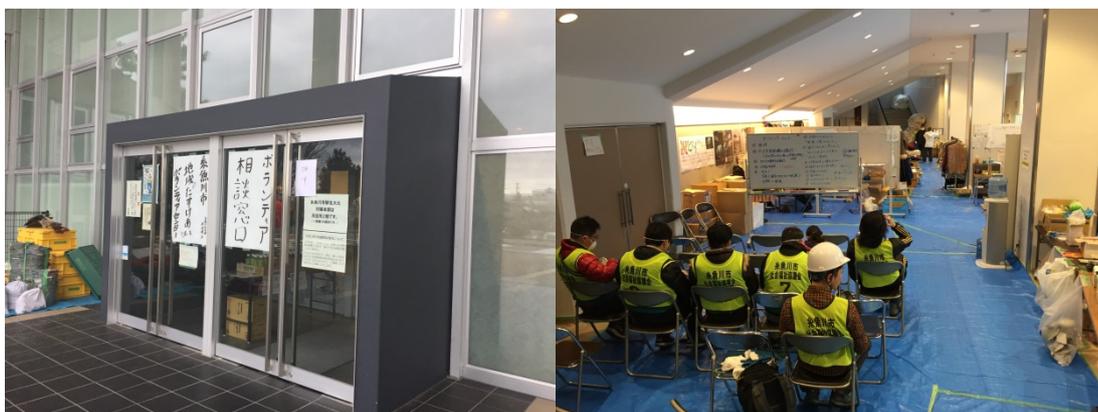
■宇土市

## Ⅱ. 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成



### ②糸魚川大火支援

12月22日に糸魚川市で発生した火災は、フェーン現象による強い南風に煽られ、中心市街地の一部を焼く尽くす大火となった。ここでは、住宅を失った被災者支援のため、ボランティアによる思い出の品探しなどの活動や生活再建に向けた相談など、糸魚川市社会福祉協議会が運営するボランティアセンター支援の活動を実施した。

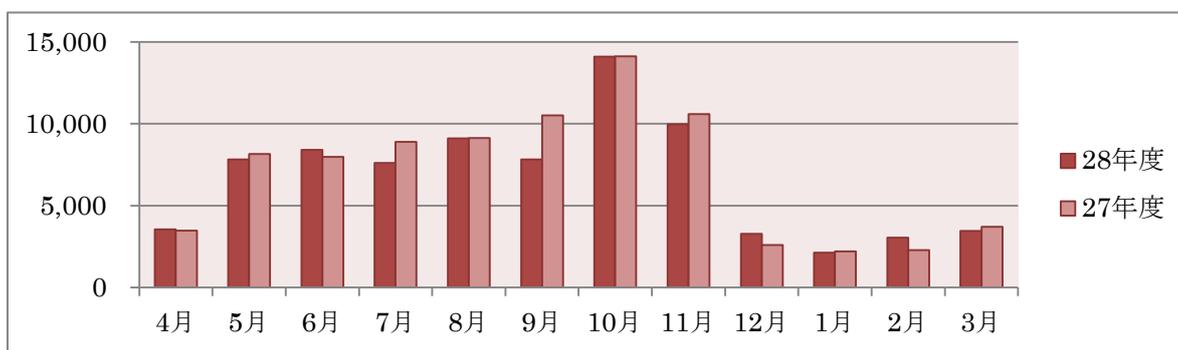


### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

## 4. 中越メモリアル回廊の維持・運営

#### ■28年度の来館者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	28年度目標値
きおくみらい	28年度	724	1,099	1,932	1,504	2,781	1,878	2,544	1,988	1,088	833	1,095	1,385	18,851	18,200
	27年度	950	1,270	2,187	1,742	2,834	1,550	2,285	1,709	780	947	692	1,106	18,052	104%
そなえ館	28年度	569	1,307	2,167	2,542	1,608	1,743	3,600	2,740	621	248	546	322	18,013	19,000
	27年度	627	1,873	2,427	2,722	1,496	2,233	3,199	2,957	387	448	523	812	19,704	95%
おらたる	28年度	1,545	3,532	3,226	2,635	3,079	3,165	5,489	4,298	1,181	948	1,102	1,425	31,625	33,600
	27年度	1,502	3,866	2,120	3,392	3,252	4,730	6,892	4,941	1,052	575	750	1,438	34,510	94%
きずな館	28年度	715	1,884	1,082	916	1,646	1,038	2,467	935	391	102	295	317	11,788	14,000
	27年度	385	1,149	1,241	1,043	1,541	2,002	1,751	985	382	232	326	352	11,389	84%
4施設合計	28年度	3,553	7,822	8,407	7,597	9,114	7,824	14,100	9,961	3,281	2,131	3,038	3,449	80,277	84,800
	27年度	3,464	8,158	7,975	8,899	9,123	10,515	14,127	10,592	2,601	2,202	2,291	3,708	83,655	95%

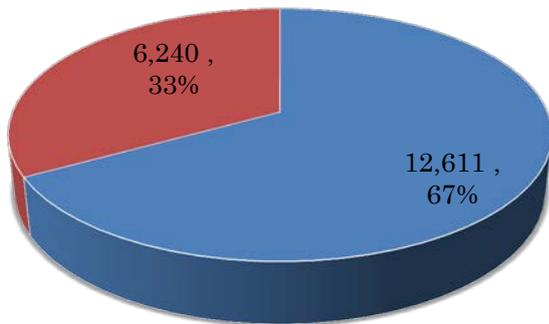


- 開館から5年（おらたる除く）を迎えた28年度は4施設合計の年間来館者は80,277人。目標の84,800人に対して94%、27年度の83,655人から下回ったものの、8万人台を維持した。（参考までにこれまでの最高は、震災10年目・26年度の90,923人）
- 施設別では、目標達成率・前年度比ともに「きおくみらい」の健闘が目立つ。これまで、来館が低調であった冬季間（12月～3月）の来館者が伸びたことによるところが大きい。
- これは、冬季間に「こども防災未来会議」などコンベンション型行事や企画展を開催したことが来館の促進につながった。冬期間に限らず、10月の中越地震周年事業を中心に年間を通じた、シンポジウムや企画展等の開催による情報発信が欠かせない。
- さらにここ数年目立つ、東日本大震災被災地からの視察に加え、28年秋頃から熊本地震被災地からの視察も増えている。今後、神戸・東北・熊本の被災地間連携、そして官・学・民の連携拠点を目指すところに「きおくみらい」の大きな役割が見えてきそうだ。
- 「そなえ館」は観光型団体の需要が一巡。団体来館の総数は減少したものの、自主防や町内会、また児童・生徒など防災学習・研修といった明確な来館目的を持つ団体には手堅いものがある。結果、有料プログラム受講は順調で、事業収益も伸びている。着手中のリニューアルでは防災学習拠点として一層の充実を図る。
- 開館3年目の「おらたる」はやや苦戦（そなえ館と同様に、観光型団体需要の一巡が要因か？）。前年度比・目標共に届かなかったものの、3万人台の維持はさすが。山古志のゲートウェイとしての交流拠点機能と地域経営拠点としてのサービス充実を目指している。
- 「きずな館」は苦戦が続く。前年度実績は超えたものの、目標未達。特に積雪期間は厳しい。震災復興における地域経営モデルの拠点として、今後のリニューアルでは目的や役割、ニーズなど地域との話し合いが重要。

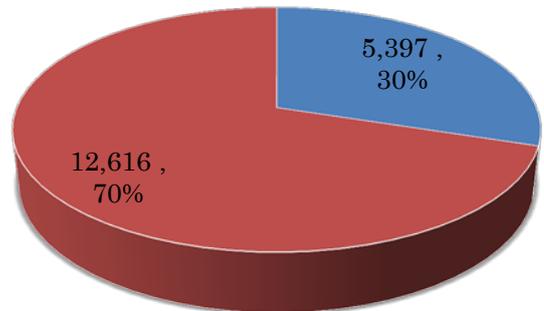
## ■施設別の来館状況

- 次に施設別の来館状況として、一般と団体（10人以上）の割合を示す。
- 「そなえ館」では、消防団・自主防災組織・町内会、そして児童・生徒といった団体来館者の割合が70%と一般来館者を圧倒しているのが大きな特徴。
- 一方で、「きずな館」での団体割合は16%と、団体の比率が1／3程度である「きおくみらい」や「おらたる」と比べてもその小ささが際立つ。
- こうした施設毎の傾向は、開館以来、各施設が志向してきた姿の結果であるとともに、強みとも弱みともいえる。
- 「強み」に特化して、その特徴をさらに磨くか、或いは、「弱み」の克服に取り組むか、各施設の持続を見据え、今後、リニューアルの方向性検討上でも重要なポイントである。

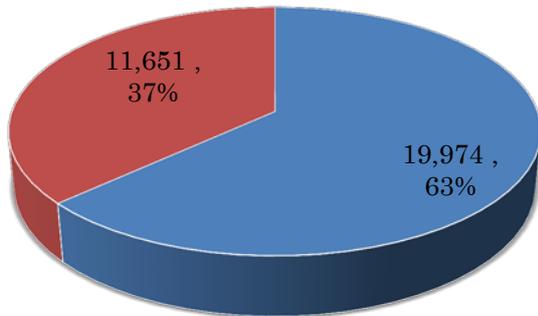
きおくみらい



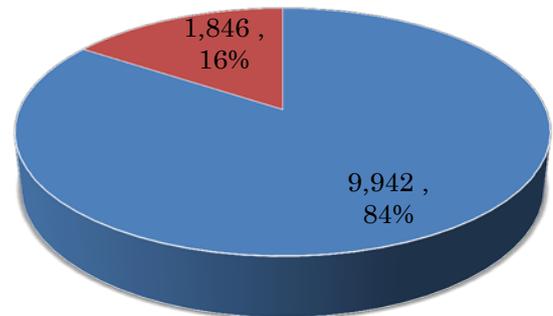
そなえ館



おらたる



きずな館



■ 一般来館者  
■ 団体（10人以上）

## 4-1. 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

## 1. 企画展・シンポジウム

## 「チーム中越」活動報告パネル展示（熊本地震支援活動）

## ■概要

期間：①平成 28 年 6 月 26 日（日）～平成 28 年 10 月 19 日（金）

②平成 28 年 10 月 20 日（土）～平成 29 年 3 月 10 日（金）

会場：①長岡震災アーカイブセンター きおくみらい 展示ホール

②長岡震災アーカイブセンター きおくみらい 多目的ホール

主催：長岡震災アーカイブセンター

概要：平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の被災地の状況及びチーム中越の避難所運営支援・現地調査の様子を紹介。

主な展示物：

- ◎ 先遣隊～第 4 陣までの活動紹介パネル
- ◎ 各陣の活動の様子、被災の様子を写した写真パネル
- ◎ 非難所運営支援で持参した段ボール製更衣室兼授乳室実物

## ■展示内容（写真）



## パネル展「メモリアルパークの今」

## ■概要

期間：平成 28 年 10 月 5 日（水）～平成 28 年 10 月 31 日（月）

会場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい 展示ホール

主催：長岡震災アーカイブセンター

概要：中越メモリアル回廊オープン 5 周年関連展示として開催。

震災から 12 年経過し、現地に行ってみたいが訪れたことがないという来館者の声から、オープンから 5 年経過した 3 つのメモリアルパークの現状を紹介するパネル展を行った。

主な展示物：

- ◎ 3メモリアルパーク紹介パネル
- ◎ 各メモリアルパークに被災写真、復興活動イベントの様子を紹介した写真パネル。

## ■展示内容（写真）



## 「東日本大震災と熊本地震」～中越大震災 12 年目のメッセージ～

### ■概要

期間：平成 28 年 10 月 22 日（土）10：00～17：00

会場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい 多目的ホール

主催：チーム中越、平成 28 年熊本地震長岡災害支援バックアップセンター

共催：新潟県長岡地域振興局

概要：【第 1 部シンポジウム】中越から東日本へ～震災アーカイブときずなの記録～

長岡市立中央図書館文書資料室が行う長岡市災害復興文庫について、文書資料室室長田中氏と長岡市資料整理ボランティアの大平氏による情報提供と、福島県南相馬市立図書館司書の高橋氏による活動紹介に続き、パネルディスカッションを開催。

【第 2 部円卓会議】～市民とともに考える、これからの被災地支援と長岡の防災力～

中越地震の被災地において復興の原動力となった官・民・中間支援組織の連携・協働による復興モデルを紹介し熊本地震の被災地における被災者の生活再建について共に考えるとともに、今後の中越の防災力向上につなげるための円卓会議を開催。

### 【熊本地震支援】

4 月 14 日の前震を受け、中越防災安全推進機構地域防災力センター、長岡市、長岡市社会福祉協議会等中越地域の災害支援関係の団体で作る「チーム中越」は、熊本県熊本市内の避難所運営支援に入る。第 1 陣が 4 月 16 日から支援に入り 5 月 9 日までに第 5 陣までが支援活動を行った。

きおくみらいでは、職員が現地支援に赴くと共に、チーム中越の活動を第 1 陣から 5 陣までのパネルにまとめ展示。9 月以降は、熊本地震の被災自治体（主に議会関係者 13 件）より、きおくみらい視察対応に当たった。

## 開催内容



## チーム中越熊本支援



## 災害メモリアルバスツアー

### 概要

名称：災害メモリアルバスツアー

期日：①川口コース 平成 28 年 11 月 12 日（土）9 時 15 分～16 時 30 分

②栃尾コース 平成 28 年 11 月 17 日（木）9 時 15 分～16 時 00 分

主催：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

共催：長岡市

参加者：①川口コース 7 名

②栃尾コース 18 名

■講演の様子：

(1) 川口コース



(2) 枋尾コース



## ししゅう高田松原タペストリー展「中越から東日本 そして熊本へ」こころの復興をつなぐ

### ■概要

期間：平成 28 年 11 月 23 日（水・祝）～平成 28 年 11 月 28 日（月）

会場：①長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

②ギャラリー沙蔵

主催：長岡「心の復興をつなぐ」実行委員会

概要：フリー刺繍作家天野寛子氏の刺繍画展および、全国の支援者が制作した岩手県陸前高田市の奇跡の一本松をモチーフとした刺繍をつなぎ合わせたタペストリーを展示。実行委員会及び陸前高田市民、支援者が陸前高田市の情報誌などを無料配布しながら被災地の現状紹介、タペストリーの作品紹介を行った。

主な展示物：

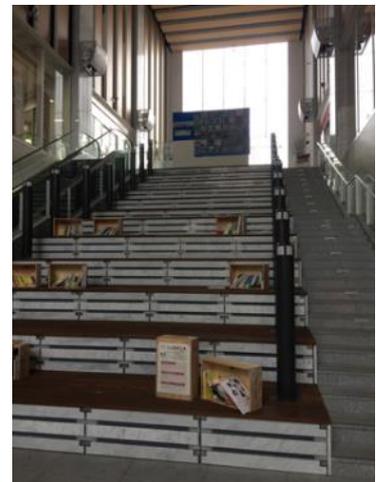
①ししゅう高田松原タペストリー 32 枚

②天野寛子フリー刺繍画 7 点

③陸前高田市、岩手県内の情報誌の展示、および無料配布

### ■展示内容（写真）

#### ①きおくみらい



#### ②ギャラリー沙蔵



■配布物



ポスター・チラシ



報告書

2. 展示更新

パソコン検索コーナーの設置

■期間：平成 28 年 7 月 17 日～継続

■目的：災害や防災、地域づくりに関する情報を、来館者より自由に検索してもらうため設置した。

中越メモリアル回廊 HP および災害・文献データベースは iPad で検索していたが、画面が小さい、誤作動が発生するなどして利用しにくかったため、検索専用のパソコンを設置した。

■検索可能ページ：

- ①中越メモリアル回廊ホームページ
- ②「災害・文献データベース」
- ③「レジリエンスにいがた資料館」
- ④新潟日報データベース

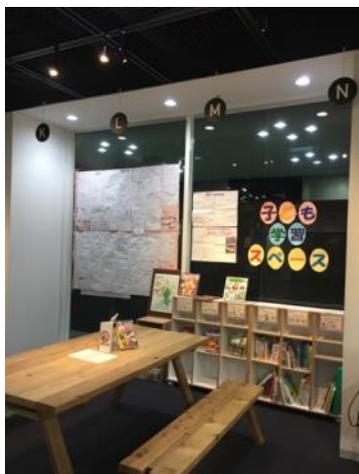


## 子ども学習スペース設置

### ■概要

期日：平成 28 年 7 月 30 日（ ）～継続

目的：市内小中学校から「きおくみらい」を利用していただく中で、学校教育時間外において家族と共に「きおくみらい」に来館する児童生徒が一定数いる。リピート来館する中で、自らが自由に学習できるスペース、子どもたちが気軽に来館して学習できるスペースを提供するために設置した。



## 3. 資料・情報収集

長岡震災アーカイブセンターの図書スペースでは、来訪者へ震災関連の書籍の閲覧を可能とするため、各出版社から発行される関連書籍を購入し、NDC 分類（図書館の使用している分類体系）に基づき登録し、展示及び貸し出しを行った。

東日本大震災 5 年に合わせて東北各地で発行された記念誌の収集も行い、同じ震災の被災地として震災を忘れることなく語り継いでいくことを目的に積極的な紹介に努め、中越メモリアル回廊のゲートウェイとしての役割を果たすために役立てた

■購入期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

■主な収集・購入図書：

地域復興の記録誌、復興検証資料、自主防災関連書籍、震災関連歴史資料、東日本大震災関連図書

## 4. 広報

### 10 月 23 日献花台設置

#### ■概要

期間：平成 28 年 10 月 23 日

概要：中越地震発災日である 10 月 23 日、アオーレ長岡東棟 3

階テラスに、震災の犠牲者の冥福を祈ると

ともに、全国の自然災害の被災地の一日も早い復興を願うため、献花台を設置した。



■概要

期間：平成 18 年 11 月 18 日（金）

概要：新潟県内でおこなわれた研修会に参加した熊本県熊本市内の新聞代理店のグループ「日新会」メンバー 8 名をもって累計来館者 10 万人を達成。館長の澤田雅浩先生より感謝状の贈呈、磯田達伸長岡市長より記念品の贈呈を行った。

掲載日:2016年11月19日、面名:4社、記事ID:KIJ20161119\_M003400100R09002



# 震災伝承 思い新たに

2004年の中越地震の経験や教訓を伝える2施設が、相次いで来館者10万人を達成した。長岡市の「長岡震災アーカイブセンターきおくみらい」は18日、小千谷市の「おそなえ館」は17日、節目に到達した。記憶の風化が懸念される中、来館者は後世に語り継ぐ思いを新たにしている。

**きおくみらい** (長岡) **そなえ館** (小千谷)

## 来館10万人に

きおくみらいの来館者10万人目となり、くす玉を割る熊本日日新聞日新会のメンバーら=18日、長岡市大手通2

2施設はともに、地震から7年経過した11年10月に開館した。「やまこし復興交流館おそなえ」(なせと)もに中越メモリアル回廊の一つになっている。きおくみらいでは、床面に敷かれた中越の航空写真や映像などで地震概要が学べる。10万人目は、こし4月の熊本地震で被災した熊本日日新聞の若手販売店主らでつくる「日新会のメンバー」ら。復興資料などを学ぶ「おそなえ館」は、熊本の古城正智さん(81)は「会長本がどう前に進めばいいか、中越の取り組みをヒントにしたい」と語った。おそなえ館は復興の道のりを写真などで紹介し、県内外の自主防災組織や小中学校の自主防災組織や小中学校の職員ら10人が10万人目となった。勉強会を行っている福島県双葉町、大熊町、浪江町の職員ら10人が10万人目となった。勉強会会長の関野博・福島大特任教授は「おそなえ館はアーカイブスの先進地。じっくりと学びたい」と話した。

新潟日報（平成 28 年 11 月 19 日 朝刊）



『中越メモリアル回廊パンフレット』増刷

■概要

期間：平成 28 年 10 月 5,000 部印刷

概要：「中越メモリアル回廊パンフレット」の増刷。

中越メモリアル回廊のゲートウェイとして、来館者へ広報するため増刷した。

回廊全体の問い合わせに対応した資料配布、連携イベント等での配布、来館者への他施設紹介のために使用。

## 『きおくみらいリーフレット』リニューアル

### ■概要

期間：平成 29 年 2 月 2 万部

概要：一般来館者に向けたきおくみらい紹介用のリーフレットを作成。

長岡市内の公共施設、宿泊施設を始め、観光案内所などに設置・配布を依頼。

きおくみらいの来館者層の約半数を占める一般来館者に向けた施設見学の概要を説明したリーフレットとして利活用する。



## 5. ガイド・語り部活動

### 語り部

#### ■概要

対応回数：全 32 回

受け入れ人数：685名

長岡震災アーカイブセンター施設見学及び語り部の講話を希望される団体に、語り部紹介、手配、会場手配を行った。来館者の要望に合わせた語り部に依頼することで、防災学習、防災研修の支援に努めた。

### 同行ガイド

#### ■概要

対応回数：18 回

受け入れ人数：228 名

中越メモリアル回廊拠点施設をめぐる団体の希望に応じて、同行ガイドを行った。地域住民ガイド及び職員によるガイドを手配した。

## 6. 職員派遣

### 仙台防災未来会議 2017 連携シンポジウム「防災イノベーターズフォーラム 2017」

#### ■概要

期日：平成 29 年 3 月 12 日

内容：仙台市で開催された「仙台防災未来会議 2017」の連携シンポジウムにアドバイザーとして参加。

中越地震、東日本大震災、平成 27 年鬼怒川決壊による被災地の常総市より、被災地の視察・見学、

観光産業の振興に携わる関係者が集まり課題の共有と課題解決に向けての議論を行った。

テーマ：防災と観光

参加者：ファシリテーター 佐藤孝俊氏（合同会社グリーンアンブレラ）

アドバイザー：石川理司（見てみようよ！常総市の会）

徳水利枝氏（一般社団法人雄勝花物語）

稲葉雅子（株式会社たびむすび）

畠山茂陽氏（特定非営利活動法人ファイブブリッジ）

浅利保氏（みやぎ観光復興支援センター）

福留邦洋氏（東北工業大学）

山崎麻里子（中越防災安全推進機構）



## 日本学術振興学会 JSPS 実社会対応プログラム（公募型研究）

### ■概要

期間：平成 27 年 10 月～平成 30 年 9 月

平成 28 年度参集日：5 月 14 日，9 月 9 日，12 月 2 日

課題（研究領域）： 「制度、文化、公共心と経済社会の相互関連」

研究テーマ： 「効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究」

目的：災害に見舞われた被災地では、経験・教訓を継承するために展示、ガイド・語り部等の災害伝承活動が行われるが、それらの効果は未検証であり、利用者が経年的に減少するという課題がある。本研究は人文・社会科学の叢智を結集し、これら諸問題を改善する災害伝承拠点構築モデルの確立を目的とする。

内容：研究プロジェクトチームのメンバーとして参加し、新潟県中越地震を中心にして、過去の被災地での展示や語り部の事例にもとづいて実践への助言を行った。



## 7. 委託事業

### 「丹波市から始めるふるさと創生シンポジウム」

#### ■概要

期間：平成 28 年 8 月 27 日（土）～29 日（月）

内容：平成 26 年 8 月に洪水被害を受けた兵庫県丹波市において、発災 2 周年にあわせ開催されたシンポジウムにおけるパネリスト調整、依頼業務及び引率。またパネリストとして登壇し、中越地域の市民活動団体の活動を紹介。地域づくり活動が現在まで続いている要員などを考察した。

登壇者：コーディネーター 宮崎緑氏（千葉県商科大学教授ほか）

パネリスト 松井智美氏（山古志木籠ふるさと会）

福島美佳氏（NPO 法人十日町地域おこし実行委員会）

荻野 充氏（丹波市商工会市島支部長）

余田一幸氏（丹波市復興推進部長）

山崎麻里子（中越防災安全推進機構）



## 8. その他

### 地域安全学会論文発表

■タイトル：被災をきっかけにして新たに生まれた外部交流拠点に関する第一次調査

－旧山古志村木籠集落の事例－

Primary survey about external communication base the newly born in the wake of the earthquake

-Case of Yamakoshi Kogomo village-

■著者：山崎麻里子<sup>1</sup>，山口壽道<sup>2</sup>，佐藤翔輔<sup>3</sup>

- 1 公益社団法人中越防災安全推進機構，
- 2 公益財団法人山の暮らし再生機構，
- 3 東北大学災害科学国際研究所

こころやっでやれることが幸せ  
起きたことは不幸であってもやれることは幸せ

二輪に作業をして、行先を差して、人が集まることの大変  
人のために苦勞をさせては、続かない

この集落は奇跡の集落だ

モットーは「支援する」「受ける」ではなく  
「一緒に楽しむ」こと

日時 平成28年 8月28日(土) 午後1時～

会場 丹波市立ライブピアいちじま大ホール

第1部 基調講演 演題「ハードウェアによるまちづくり」講師 宮崎緑さん

第2部 パネルディスカッション「新しいコミュニティのカたち」

コーディネーター 宮崎 緑 氏

パネリスト  
 松井 智美 氏（山古志木籠ふるさと会）  
 福島 美佳 氏（NPO法人十日町地域おこし実行委員会）  
 山崎 麻里子 氏（中越防災安全推進機構）  
 荻野 充 氏（丹波市商工会市島支部長）  
 余田 一幸 氏（丹波市復興推進部長）

キーワードTOP  
交流、地域の主体性、オープン  
誇り、生きる喜び

手続送料・費約筆記  
託児所あり

入場 無料

主催 丹波市・(一財)自治総合センター 協賛 総務省 協賛 兵庫県丹波市民局

このシンポジウムは全額一財団・一財局より助成を受けて開催されています

TEL:079-46-4000

## 4-2. 小千谷震災ミュージアムそなえ館

### 1. 事業広報 PR 活動

- 開館 5 周年記念行事の実施。（記念企画展・シンポジウム・追悼花火打上）



企画展「塩谷芒種庵の軌跡展」



記念シンポジウム「熊本へのメッセージ」

- 10 万人達成記念式典の実施（11 月 17 日）大塚市長など多くの関係者にご臨席いただく。



- 地元イベントや首都圏への出店



そなエリア東京出張講演



おちゃーるオープニングイベント出店

その他、「山本山祭り」「小千谷市総合防災訓練会場」などに出店、PR 活動を実施

### 2. 地域防災力向上支援 防災学習コース活用促進

- 防災学習コースの県内・首都圏への PR 促進、防災学習体験プログラムの充実、プログラム事例集の作成・配布（首都圏・隣県を中心に基礎自治体の関連部署に約 1 万件 DM 送付）

おちや震災ミュージアム そなえ館  
Ochiya Earthquake Disaster Museum  
防災学習体験プログラム  
好評受付中！  
知る 聴く 考える 体験する

地域や組織の防災力強化活動のきっかけ作りを最優先  
「防災学習体験プログラムの充実」から学ぶ防災学習体験プログラムに参加された方へ  
防災学習体験プログラムは4コース  
Aコース Bコース Cコース Dコース  
おちや震災ミュージアム そなえ館  
〒999-8501 秋田県小千谷市小千谷1-1-1  
TEL: 0258-99-7400  
FAX: 0258-99-7400  
E-MAIL: info@ochiya-museum.jp

●語り部さん新規開拓



社会福祉協議会より

保健センターさんより

より専門分野の語り部講話希望が増加。（NPO 法人防災サポートおぢやさんより紹介いただく）

3.次世代防災学習支援 学校や家庭・地域での防災学習支援

新潟県防災教育プログラムを活用した学校現場での防災教育ニーズが浸透、地元小中学校の利用が増加。また、フレンドシップスクール（杉並区中学校）、グリーンツーリズム（おぢやファンクラブ、魚沼市）などの受け入れが増加している。



小千谷特別支援学校出前防災講座



南小学校出前防災講座



東山小学校出前防災講座



吉谷小学校出前防災講座



片貝中学校受け入れ



片貝子供会災害食体験



柏崎市立新道小学校親子行事



杉並区中学校受け入れ



子ども向け防災イベント開催

#### 4.施設運営施策の見直し 持続可能な施設運営

●団体客の受入方法の見直し、改装プラン立案

平成 29 年 3 月 13 日～4 月 22 日改修工事、4 月 23 日（日）リニューアルオープン

研修目的団体、学校の防災教育目的での来館増に対応するため、40 人単位での案内ができるリニューアル工事を行う。3 階の第 4・5 学習室を改装、主に学校対応に活用。

●防災グッズやミュージアムグッズの企画・販売方法仕入方法の見直し

新タイプ防災格言風呂敷を企画制作販売、品質向上を図り単価を上げたが特に影響なく、1,500 枚完売。

ホイッスルや LED ライト、風呂敷などのセット販売が好調。

●施設運営の連携先の検討、人材育成の模索

「市民の家」と連携した防災学習プログラムの検討。防災士・防災介助士・準デジタルアーキビスト資格の取得に挑戦中。防災教育コーディネーター養成講座を受講。

#### ■月度別主な活動記録

【4 月】来館者 569 人（一般 356、団体 213、団体数 7）前年比 90.7% 低調なスタートとなる

日付	活動内容
～7	防災そなえチャレンジ 2017 春開催、ジュニアサポーター次世代交代、子供来館が 147%と好調
9	スタッフ研修 柏崎まちからへ視察研修を実施
28	岩手県大槌町総合政策課 視察研修対応
29～	防災そなえチャレンジ 2017GW 開催

- ・ホームページ団体向け（旅行代理店）専用サイトを立ち上げる。



スタッフ研修（まちから）

春休みイベント

GW イベント

【5 月】来館者 1,307 人（一般 499、団体 808、団体数 26）前年比 69.8%

日付	活動内容
～8	防災そなえチャレンジ 2016GW 開催 9 日間で 79 人が参加、好評
14	芒種案を創る会メンバーと榎葉町との田植え交流会を取材

- ・杉並区立中学校フレンドシップスクール 2 校（約 200 人）を受け入れ
- ・上越市防災教育研修に参加（細貝君）被災未体験者に状況を伝えることの難しさを改めて感じる。
- ・物販ブースを改良、スペースを広げ見やすくした。



杉並区立中学校フレンドシップスクール 芒種庵・檜葉町 田植え被災地交流取材 新プログラム防災グループワークを実施

【6月】来館者 2,167 人（一般 354、団体 1,813、団体数 55） 前年比 89.3%

日付	活動内容
3	文京区魚沼移動教室実地踏査の先生方下見来館、活用 PR を行う
6	柏崎市北条小学校 6 年生来館、防災学習体験プログラムを実施
12	小千谷市自主防災連絡協議会研修会をサポート
24	小千谷市民対象としたメモリアルツアーを実施（柏崎～長岡市小国地区）



防災グッズ販売絶好調（改修効果） 文京区先生に活用 PR メモリアルツアー 語り部講話

【7月】来館者 2,542 人（一般 1,020、団体 1,522、団体数 60） 前年比 93.4%

日付	活動内容
25～	防災そなえチャレンジ夏開催、謎解きが好評
24	おちゃーるオープニングイベントに出店
30	OGP さん主催の子ども元気プロジェクトに協力、多くの地元来館者でにぎわう
31	片貝子供会災害食体験プログラム実施

- ・月 13 回の語り部講話、記録更新。
- ・ジュニアサポーター、イベント等で大活躍。
- ・学校関係の来館相次ぐ。（文京区 4 校、県内 2 校、江戸川区 2 校等 527 人）
- ・有料プログラム参加団体 13、売上 30 万



ジュニアサポーターが大活躍 災害食体験プログラムを実施 来館記念顔出し看板設置

【8月】来館者 1,608 人（一般 962、団体 646、団体数 22）前年比 107.5%

日付	活動内容
11	おぢや地域食推さんの 食のふしぎ発見おやこジャングルをサポート
17	BSN キッズチャレンジ・キッズ防災キャンプ（小学生）をサポート、市民の家との連携モデルプラン
21	妙高市防災リーダー研修会で防災クロスロードを実施（風間会長と同行）
28	石巻市震災遺構検討会議のみなさま受入れ。星野剛氏語り部実施。
～31	防災そなえチャレンジ 2016 夏開催

・グリーンツーリズム中学生 2 校、BSN キッズ防災キャンプ、小千谷地区食推さんの「親子ジャングル」などを受け入れサポート、子ども来館数好調に推移。



防災そなえチャレンジ夏



親子ジャングル



妙高市防災リーダー研修会（出前）

【9月】来館者 1,743 人（一般 440、団体 1,303、団体数 48）前年比 80.2%

日付	活動内容
18	檜葉町芒種庵を創る会交流稲刈りに参加、取材
25	山本山まつりにブース出展

・文京区魚沼移動教室 6 校 378 人、グリーンツーリズム 1 校、有料プログラム/語り部実施 8 団体。  
 ・小中学校来館相次ぎ対応が厳しい状況に。8 校 498 人来館。サポートの必要性を感じる。



追悼花火募金開始



文京区小学校防災サバイバルゲーム



防災工作

【10月】来館者 3,600 人（一般 573、団体 3,027、団体数 82）前年比 115.1%

日付	活動内容
1～30	開館 5 周年特別展「芒種庵 10 年の軌跡」そなエリア東京でも同時開催
9	そなエリア東京、出張防災紙芝居（和田さん）3 回の講演
22	芒種庵 10 周年大同窓会
23	小千谷市防災訓練、PR ブース出展
23	5 周年記念シンポジウム～追悼式典～追悼花火の打ち上げ
30	岩沢地区収穫祭で出前防災紙芝居

- ・武蔵野市立第一小学校 4 年生、小千谷小学校 5 年生 4 クラス、片貝中学校 1 年生、千田中全学年  
出前防災講座：吉谷小学校、加茂市立若宮中学校、小千谷中学校など学校対応ピーク
- ・有料プログラム/語り部実施 11 団体。
- ・物販、有料プログラム参加費で 164 万、過去最高を記録。
- ・目黒さん防災士資格取得



東京そなエリア出前紙芝居



吉谷小学校出前講座



片貝中学校来館



5 周年記念シンポジウム



追悼花火



5 周年記念特別展

【11 月】来館者 2,740 人（一般 430、団体 2,310、団体数 81）前年比 92.7%

日付	活動内容
6	芒種庵主要メンバーと檜葉町へ被災地交流の一環で訪問
8	第一測範さん（鉄工電子協同組合理事長）とリニューアルについて取材、打ち合わせ
17	来館者 10 万人達成記念式典開催

- ・地域防災を担う団体 32 団体 950 人（うち有料プログラム 11 団体）。
- ・有料プログラム/語り部実施 13 団体、学校 2 校
- ・土日は子ども向けイベント防災そなえチャレンジ秋を実施
- ・物販、有料プログラム参加費で 170 万、10 月の過去最高記録を更新。



南小学校 1～2 年生防災工作



5～6 年生ポリ袋料理



3～4 年生防災工作



檜葉町訪問



和田さん有料プログラムデビュー



新語り部さんデビュー（社協）

【12月】来館者 621 人（一般 166、団体 455、団体数 8）前年比 160.5%

日付	活 動 内 容
2	柏崎市立新道小学校 PTA 行事（3 年連続）
6	小千谷特別支援学校出前防災講座

- ・有料プログラム参加団体 4 団体
- ・防災学習体験プログラム PR パンフレットを関東圏・隣県中心に基礎自治体・社会福祉協議会に送付
- ・閑散期を利用してリニューアルに向けての準備を始める（原稿収集・語り部さん文字起こしなど）
- ・リニューアルに向け、新たに市民から聞き取りアンケート調査を開始



柏崎市立新道小学校 PTA 行事



小千谷特別支援学校出前防災講座



ポリ袋料理研究（デザート）

【1月】来館者 248 人（一般 133、団体 115、団体数 6）前年比 55.4%

日付	活 動 内 容
19	小千谷市立東山小学校出前防災講座実施

- ・4 月に向けたリニューアル関連の打ち合わせ準備を集中的に行う。
- ・和田さん、防災介助士資格取得講座受講及び受験、見事に合格。



東山小学校出前防災校講座



高学年はポリ袋料理に挑戦



NHK 番組の取材を受ける

【2月】来館者 523 人（一般 306、団体 240、団体数 10） 前年比 104.4%

日付	活動内容
4~5	芒種庵を創る会メンバーと東北復興支援ツアーに同行、石巻市東松島市などを訪問

- ・リニューアルに向けた取材、原稿収集を行う。
- ・H28 年度採用小千谷市職員のみな様来館
- ・防災教育養成講座に参加～3月まで（和田・細貝）



東北復興支援取材同行（石巻市）



東松島市メモリアル施設訪問



小千谷市新規採用職員ご来館

【3月】来館者 322 人（一般 158、団体 164、団体数 5） 前年比 39.7%

日付	活動内容
4	新潟市西区自主防災会研修
13	リニューアル工事のため休館～4月22日

- ・細貝さん、防災介助士資格取得講座受講及び受験、無事合格。
- ・目黒さん、準デジタルアーキビスト資格取得



新潟市西区防災会研修会受入



小千谷市原子力災害避難訓練取材



改修工事始まる

## 4-3. 山古志復興交流館おらたる

## ①知的観光拠点としての機能拡充

## ○年間来館者数

31,656名（一般客：20,020名、団体客：11,636名）

## ○住民ヒアリング

## 住民ヒアリング

日 時：平成29年3月4日(土)、3月10日(金)、3月18日(土)、3月22日(水)

場 所：1階交流スペース、ホテルニューオータニ長岡3階NCホール

対象者：長島忠美氏、関正史氏、松井富栄氏

概 要：経験や情報を蓄積するため、震災の時の話や今の山古志、これからの山古志などについて住民にヒアリングを行った。記録として保管するため文字起こしも行った。

ヒアリングの一環として、3月18日に開催された芋川地区直轄地すべり対策事業完了記念式典での長島忠美氏の講演を拝聴した。



## ○企画展・周年事業

## ありがとうマリ展

日 時：平成28年6月12日(日)～7月29日(金)

場 所：1階交流スペース

参加者：期間中来館者4,547名

概 要：映画「マリと子犬の物語」のモデルになった犬のマリが平成28年6月10日に亡くなった。山古志の復興のシンボルであったマリを偲んで、思い出の写真などの展示を行った。



## 企画展「牛の角突き」

日 時：平成28年8月15日(月祝)～9月19日(月祝)

場 所：1階交流スペース

参加者：期間中来館者3,715名

概要：山古志の伝統文化であり、国の重要無形民俗文化財に指定されている「牛の角突き」に興味を持ってもらうきっかけ作りとして企画展を実施した。写真だけでなく、山古志闘牛会の協力で道具や衣装なども展示することが出来た。



### つなごう山古志の心展

日時：平成28年9月10日(土)～11月13日(日)

場所：やまこし復興交流館おらたる 全館

参加者：期間中来館者 10,337名

概要：全国の皆様へ「ありがとう」の気持ちや、震災からの復興の様子（山古志の歩み・今）を伝える企画展として実施した。館内全体を使い、入れ替えを行いながらの展示のほか、イベントとして映画上映も行った。



### 四季の山古志写真コンテスト 作品展

日時：平成28年12月1日(木)～平成29年1月31日(火)

場所：1階交流スペース

参加者：期間中来館者 2,129名

概要：地域住民からの反響も大きい四季の山古志写真コンテストの入賞作品を山古志観光協会より借用し、展示を行った。



### 山古志 木籠メモリアルパーク展

日時：平成29年1月14日(土)～平成29年3月20日(月祝)

場所：1階交流スペース

参加者：期間中来館者 2,654 名

概要：山古志への来訪者の関心が高い場所である木籠メモリアルパークを題材に企画展を実施した。震災前の木籠集落の様子から、震災直後から現在にいたるまでの写真を時系列で展示した。また、闘牛救出の話のヒアリングを行い、住民のドラマとして展示した。



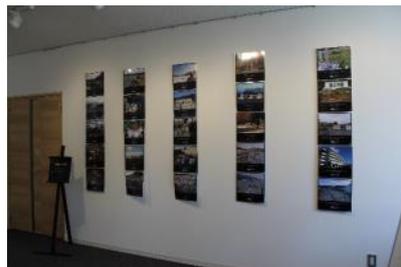
### 3.11 東日本大震災より 6 年 復興応援企画展

日時：平成 29 年 3 月 1 日(水)～平成 29 年 3 月 20 日(月祝)

場所：1 階交流スペース

参加者：期間中来館者 1,076 名

概要：復興祈願をこめて、山古志地域と東日本大震災被災地との交流の様子の写真やスライドショーで紹介した。また、特定非営利活動法人@リアス NPO サポートセンターが取り組む「復興カメラ」の展示も行った。3 月 11 日の震災発生時刻には、館内放送で黙祷を行った。



#### ○視察・研修の受入

年間 438 団体

- ・ 6 月 18 日龍江地域づくり委員会視察 16 名
- ・ 9 月 15 日福島大学ふくしま未来推進室 19 名
- ・ 10 月 26 日甲佐町議会視察 15 名

など

#### ②地域経営拠点としての取り組み

##### ○住民ガイド・語り部の利用促進

山古志住民ガイド利用数：128 団体（2,903 名）

語り部利用数：16 団体（496 名）

##### ○地域の語り部活動

#### 観光ボランティアガイド関東圏大会 in 山梨 視察研修

日時：平成 29 年 2 月 2 日(木)～2 月 3 日(金)

場所：ベルクラシック甲府および山梨県広域

参加者：畔上凌、関将慶

概要：山古志住民ガイド事務局として、接客対応や安全管理などについて学び、スキルアップすることや、参加する各種団体等との関係を作り山古志住民ガイドの利用促進につなげることを目的として視察研修を行った。



### 山古志住民ガイド受入態勢の強化

概要：利用者の満足度向上に伴う利用者数の増加を目的とし、山古志住民ガイドの受入態勢強化のため、傘の貸出や、繁忙期の複数ガイドの稼働に対応していくために備品の補充を行った。

### ○イベント開催

#### GW！おらたる上映会

日時：平成28年4月29日(金)～5月1日(日)、5月5日(木)、5月7日(日)～5月8日(日)

場所：2階大ホール

参加者：累計100名

概要：ゴールデンウィーク中は来館者が増加するので、それに併せて大ホールのシアター機能を活用し、地域の魅力PRをねらい、山古志関連映像の上映会を行った。

#### ありがとう！ご来館10万人記念セレモニー

日時：平成28年11月3日(木祝)

場所：1階交流スペース

参加者：50名(対象者、来賓、報道関係者含む)

概要：おらたるの来館者が10万人を達成したため、これまでおらたるを訪れてくださった全ての来館者に「ありがとう」の気持ちを表すため、記念セレモニーを開催した。対象者の小千谷・山古志日本文化体験の旅の皆様には記念品を贈呈した。セレモニーのなかで、新館長の就任報告も行った。



#### パソコン・タブレット教室

日時：第1回 平成28年12月15日(木) 13:00～15:00

第2回 平成28年12月19日(月) 13:00～15:00

場所：1階交流スペース

参加者：第1回 5名 / 第2回 7名

協力：NTT 東日本新潟支店

概要：昨年度実施したパソコン教室の中で、開催希望が多かった「年賀状作成」を今回の教室では行った。昨年度から継続して参加してくれる人のほかに、新たな参加者を獲得することが出来た。内容は検討しながら、来年度も実施していきたい。



### おらたる映画上映会

日時：平成29年3月29日(水) 10:00~11:30

場所：2階大ホール

参加者：23名

概要：地域住民に気軽に立ち寄ってもらえる施設にするために、おらたるに来館することへの抵抗感を減らすことを目的として、人気のある映画上映会を開催した。

地域内のイベント等と調整しながら、地域に定着させられるよう来年度も実施したい。



## ○地域内組織との連携事業

### まちの駅との連携

概要：越後長岡まちの駅ネットワークシールラリーのチェックポイントとして、参加者の対応を行った。

### カウンターテーブルの設置

概要：古民家部材を活用したカウンターテーブルの製作・設置を行った。

### 古志の火まつりとの連携

概要：地域内のイベント「古志の火まつり」のパンフレットにておらたる PR を行い、当日は「3.11 東日本大震災より6年 復興応援企画展」を通じて、古志の火まつりとの連携に取り組んだ。

### 四季の山古志カレンダーのデータ化

概要：山古志観光協会が震災以前から製作している四季の山古志カレンダーは、震災の際に紛失した。館長からの提案もあり、山古志観光協会と連携し、第1回からの四季の山古志カレンダーを地域内から集め、データ化を行った。

### コミュニティビジネスの推進

概要：食品営業許可の申請・取得。試験的に地域内配達弁当の製造（9回）や、雪かき道場交流会の食事提供（2回）を行った。

### ③地域のゲートウェイ機能強化

○地域情報の発信・更新

年間 93 回（Facebook、ホームページ）

○地域ゲートウェイ

### 山古志散策ナビゲーション「山なび」システム改修

概要：利用者の声をもとに、更なる活用促進をねらって、モデルコースの新設等の整備を行った。

### ④防災教育への取り組み

○児童向けプログラム研究

### 防災&山古志学習プログラムの活用

概要：防災&山古志学習プログラムを活用し、小中学生の受入に取り組み年間 6 団体を受け入れた。

- ・ 5 月 22 日長岡市立青葉台中学校 2 年生 63 名（引率 4 名）
- ・ 6 月 22 日長岡市立黒条小学校 5 年生 124 名（引率 5 名）
- ・ 8 月 22 日長岡市立山古志小学校・中学校教員 14 名
- ・ 11 月 7 日新潟大学附属長岡小学校 6 年生 66 名（引率 3 名）
- ・ 11 月 18 日長岡市立四郎丸小学校 6 年生 74 名（引率 3 名）
- ・ 12 月 3 日長岡市立山本中学校荒木先生ほか 5 名

### 防災&山古志学習プログラムバスツアー

日時：平成 28 年 11 月 7 日(月)

場所：やまこし復興交流館おらたる、山古志体育館、山古志地域内(木籠集落、中山隧道)

参加者：新潟大学附属長岡小学校 6 年生 69 名

概要：防災&山古志学習プログラムの普及を目的にバスツアーを実施した。対象は新潟大学附属長岡小学校 6 年生とし、防災&山古志学習プログラムを活用して、学習 BOOK を用いた学習、施設見学、地域  
見学、おらたる山古志検定を行った。



## 4-4. 川口きずな館

## 1. 地域の情報収集と発信

○5000人の絆の収集スタイルの見直し

従来のテーマであった「震災でお世話になった人への感謝の手紙」から間口を広げ、「震災のエピソード」や「川口地域の昔話」など、より話しやすいテーマで取材。

個人への依頼だけでなく、懇親会や茶会などの地域の方を集めて直接話を聞けるようなイベントでも聞き取りを行った。



懇親会

出張茶会

○語り部の依頼と情報の整理・登録

5000人の絆の取材と連動して、「①地域の昔話」「②被災の体験」「③復興から未来を語る」の3つのテーマで来館者に対して語れる人材を探し、依頼を行った。



中越メモリアルバスツアー  
多川 孝義氏・水落 達也氏

宮崎県庁 視察  
小林 美知江氏

## 2. 地域の団体や個人が何かをやりたくなる環境づくり

### ○地域活動団体の活躍の場の提供

川口地域内で音楽を趣味にしていた人達を集め、4月から発足した「KAWA ROCK」のイベントをサポート。春と秋の2回、夜間に川口きずな館を会場にライブイベントを実施。

川口地域内の人を中心に老若男女問わず多くの人が来場した。

その他、地域の方に講師を依頼し開催した企画、「きずな館でイベントをやってみよう」という声から実現した企画などを開催。



KAWA ROCK ライブイベント



木の実のクラフト教室

親子で挑戦！釜玉うどんづくり



お月見団子づくり

一箱古本市

### ○夜のきずな館（多世代交流の場作り）

前年度から継続事業として夜間の交流イベントである「夜のきずな館」を年間4回開催。

前年度に比べて参加者数規模、20～30代の参加率が増加。

参加地域も川口地域内だけに拘らず、長岡・魚沼・小千谷など、他地域からの参加もあり、より多くの層の多世代交流の場の足掛かりとなった。



KAWA ROCK イベントと  
フィーチャリング



7月開催



9月開催



12月開催

### 3. 周辺地域・施設との連動（地域経営指標に基づく活動）

#### ○周年事業の開催

毎年住民主体で開催している追悼式典や、川口中学校の生徒による震央メモリアルパークの植栽を開催。また、川口きずな館開館5周年として、これまでの活動の写真等を展示するイベントも行った。



中越地震追悼式典



震央地植栽



和南津地区絆の道ウォーク 参画



きずな館開館5周年企画展

#### ○地域イベントへの参画

川口きずな館の活動PRも兼ねて地域のお祭りやイベント等に出店。

きずな館で販売しているドリンク類に加えて、お祭り限定の商品も販売。



## 4-5. 妙見メモリアルパーク

## ■記帳台・献花の設置（10月23日）

中越地震発災日に、犠牲になられた方への追悼と祈りのための来訪者のため、記帳台と献花を設置。  
同日は、泉田前新潟県知事も訪れた。



## 4-6. 木籠メモリアルパーク

## ■平成27年度から着手している、水没家屋の積極的保存に向けた調査と流出対策工事が完了



## ■木籠集落水防家屋保存完了報告会を開催（10月23日）



■木籠メモリアルパークの情報発信による懇話会（8月30日・おらたる）

今回の水没家屋の保存に至る経緯やその決定プロセスを検証し、震災遺構保存のあり方やその意味、さらには震災経験伝承までを含め、今後の中越メモリアル回廊事業の運営に資するべく、学識者を交え、関係者間による議論の場を設けた。この議論をきっかけとして、メモリアルプロセス研究会の設立につながった。

- 《参加者》 澤田雅浩（長岡造形大学教授）  
 米山 力（長岡市山古志支所長）  
 松井吉幸（木籠区長）  
 田中康雄（NPO 中越防災フロンティア事務局長）  
 山口寿道（山の暮らし再生機構理事長）

- 《オブザーバー》 国土交通省湯沢砂防事務所  
 新潟県震災復興支援課  
 新潟県長岡地域振興局  
 長岡市地域振興戦略部・山古志支所

- 《事務局》 中越防災安全推進機構



■メモリアルプロセス研究会の開催

中越メモリアル回廊はオープンから5年が経過、東日本大震災や熊本地震など相次ぐ震災もあり、被災地への支援そして防災・減災社会への貢献など、これからの中越メモリアル回廊が果たす役割について回廊スタッフ自らが研究テーマを設定し、アドバイザーを交え議論。29年度も継続していく。研究成果は広く発信するとともに、進行中の回廊施設のリニューアルにも反映させる。

《研究メンバー》

《アドバイザー》

稲垣文彦	震災アライヴス・メモリアルセンター長	上村靖司	長岡技術科学大学 教授
諸橋和行	地域防災力センター長	澤田雅浩	長岡造形大学 准教授
赤塚雅之	きおくみらい マネジャー	松田曜子	長岡技術科学大学 准教授
山崎麻里子	きおくみらい マネジャー	小島由記子	長岡工業高等専門学校 助教
松本勝男	そなえ館 マネジャー	水戸部智	NPO 柏崎まちづくりネットあいさ (まちから 市民活動運営者)
筑波匡介	まちから マネジャー		
玉木賢治	事務局長		

《開催経緯》

- 第1回 12月20日（火） 18:00～20:00 きおくみらい  
 第2回 1月27日（金） 18:00～20:00 きおくみらい  
 第3回 2月22日（水） 18:00～20:00 きおくみらい

4-7. 震央メモリアルパーク

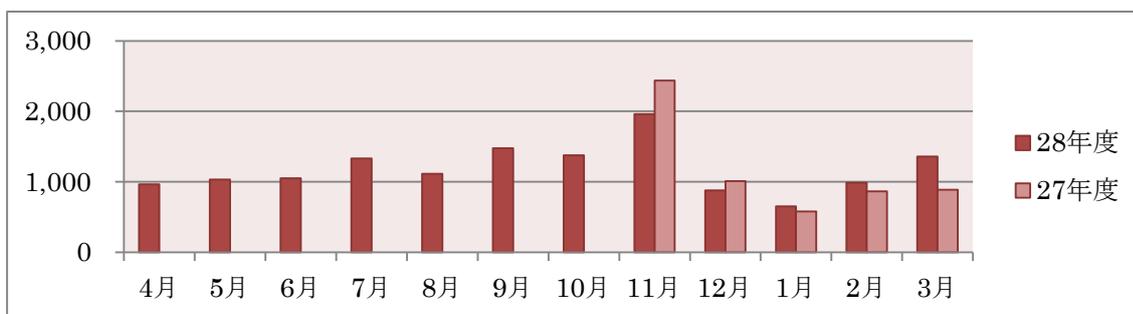
- 10月、中越大震災周年事業として、震央メモリアルパークで植栽活動を実施（川口きずな館の頁に記載）。

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

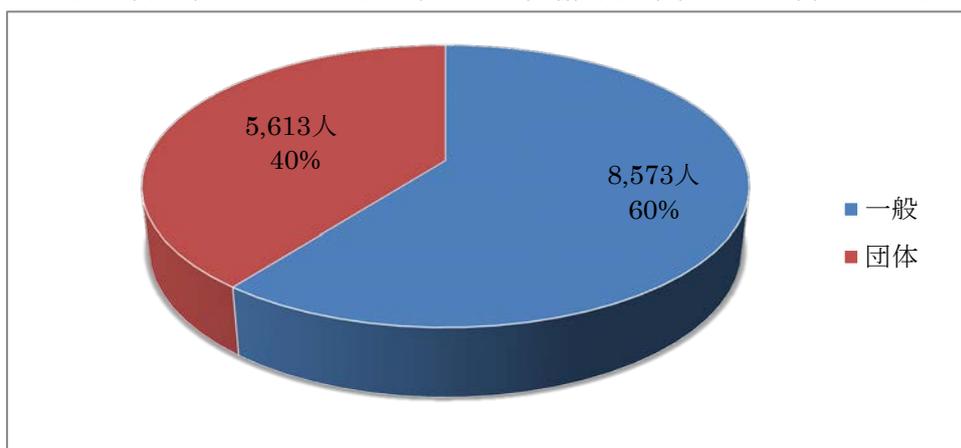
## 5. 中越沖地震メモリアル施設の運営

### 1. 28年度の来館状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	28年度目標値
まちから	28年度	963	1,034	1,049	1,331	1,116	1,477	1,379	1,961	877	652	987	1,360	14,186	10,000
	27年度								2,438	1,010	579	867	890	5,784	142%



- 28年度の来館者は14,186人で目標の10,000人に対して達成率142%。
- 月別では、最多はオープン月・11月の1,961人。中越沖地震発災月の7月は1,331人で月別では5番目であった。
- 来館者構成は一般60%、団体（10人以上）40%。中越メモリアル回廊の「きおくみらい」や「おらたる」の団体割合が1/3程度であることと比べ、団体比率が高め。
- 団体の内訳は124団体・5,613人で地元柏崎のコミュニティセンター利用が多いのが特徴。これは市民活動センターとの併設効果であり、団体比率を高めている要因の一つでもある。
- 県外からも議員や行政視察、東日本大震災被災地からの視察もみられるが、防災学習・研修プログラムの充実、原子力災害やBCPなど中越沖地震ならではのコンテンツ開発などを通じて県内外へPRし、地域外からの来館促進を図ることが課題である。



### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### 2. オリジナル風呂敷制作・販売（広報）

○地元PRキャラクター『えちゴン』をモチーフとした風呂敷を制作、広報展開のほか、エプロンやバックとしての使い方を日常生活への備えとして提案。

- ・地域のコミュニティセンターでは、スタッフのエプロンとして活用いただき、その後の防災講座への参加など一定の宣伝効果を得た。また、「まちから」や観光協会の窓口にて販売、観光のお土産としてのニーズもあった。



えちゴンのぼうさい風呂敷



情報ルームでの展示



上条コミセンでの活用

#### 3. 語り部活動

- ・福島からの避難者で、柏崎被災者サポートセンターあまやどりの支援スタッフを語り部として、市民向けに、自身の避難経験に基づく原子力災害の備えプログラムをスタート。原子力発電所の立地地域として、真剣に聞き入る姿が印象的であった。
- ・柏崎地域国際化協会との連携で、アメリカ合衆国出身者による災害食講座も開催。災害弱者等への理解、多文化共生について学びの場を新たに設けた。
- ・熊本や東北の被災地からの視察では、中越沖地震での経験や東日本大震災時の広域避難受入へのこれまでの取り組みや今後の見守り支援の紹介とともに、経験を語り継ぐことに対する意見交換などを行った。



### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### 4. 地域防災力支援活動

- ・まちからのイベントに併せて多様なテーマで実施。健康がテーマではエコノミークラス症候群、ハロウィンでは災害時にも使える手作りランタンなど。
- ・NTT 東日本新潟支店と連携した災害用伝言ダイヤル講座の開講、パッククッキングのできるパンの試食会などを通じて、日頃からの顔のみえる付き合いの大切さを共有した。
- ・また関係機関との連携として、地域包括支援センターと地域ケア圏域会議、コミセン行事への出張、防災出前講座なども実施。



ナナイロ健康教室



手作りランタン



災害伝言ダイヤル

#### 5. 防災教育・支援活動

- ・学外での活動中に生徒の命をどのように守るのか、津波災害授業の検討を職員研修として行い、全校生徒への授業の実施へ。先生の姿勢が主体的なものとなり、外部講師では担えない熱い授業に。さらに、市が配布している「防災ガイドブック」の活用で家庭とも連携した。
- ・はまなす特別支援学校の受入れを行うとともに、原子力災害での避難訓練及び、防災管理について意見交換を行った。防災紙芝居や災害食の試食体験が好評であった。
- ・新潟産業大学の教員養成課程の学生や総合学習で災害や復興といったテーマのグループの受入れも行い、中越沖地震からのまちづくりや、防災についての授業を行った。



柏崎市立東中学校職員研修



東中学校津波災害授業



総合的な学習の時間



はまなす特別支援学校



新潟産業大学教員養成課程



校外学習の受入れ

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### ○地域活動における防災教育

- ・ 幼児向け、低学年向けに防災を題材にした紙芝居を導入した。親子連れや、特別支援学校などの対応に有効であった。
- ・ そなえる工作知恵袋セットとして、蓄積したノウハウを冊子と材料のセットを作成した。工作セットは、子ども会やコミセンからの問い合わせも多く、29 年度も防災の広報ツールとしても活用していく。



防災紙芝居の導入



備える工作キット

#### 6. 企画展の開催

- ・ 関東大震災が発生した 9 月 1 日防災の日に合わせてパネル作成。
- ・ 柏崎市の他施設との連携を図るため、痴娯の家と協働で「青い瞳のミルドレッド」展を実施した。
- ・ 「まちのちから展」として、中越沖地震への応援メッセージとして届けられた漫画家等の色紙と、語り部紹介（まちからの 100 人）を中心とした展示を行った。
- ・ 「あまやどりの記憶」として福島県博物館とあまやどりとまちからにて柏崎市被災者支援センターの取り組みを紹介するパネルを作成した。合わせて福島県立博物館で館長講座としてトークセッションと展示解説会を実施した。福島県とは被災地支援の一環としても今後も連携した取り組みを続けたい。
- ・ また柏崎市防災・原子力課と連携して、避難所での女性への配慮を考えることの大切さを伝えるものとして、段ボール製の更衣室の展示を行い、常設化した。



防災の日



コミュニティセンターの記録 青い瞳のミルドレッド

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興



まちからの100人



bまちのちから展



まちから感謝祭



福島県立博物館



館長講座 トークセッション



段ボール更衣室の常設展示

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

## 6. ふるさと新潟防災教育推進事業（学校サポート）

### 1. 目的

児童生徒の災害から生き抜く力を育むため、新潟県内の全小中学校に配布した「新潟県防災教育プログラム制作事業」（平成26年2月に配布済、平成28年2月には原子力災害編が完成・配布済）の成果品の活用を促すとともに、各学校で防災教育を進める担当教員等が防災教育の重要性を理解し、実践的で継続的な取組を実施できるよう、防災に関する専門的・技術的な支援を行う。

### 2. 事業の実施内容

#### ①事業周知のための訪問説明

学校実践事業の実施や申請に関心のある市町村・学校に出向き、事業説明（実施に際しての助言、他市町村の動向、申請手続きの相談等）を行った。また、教職員対象の研修会において、ふるさと新潟防災教育推進事業に関する情報提供を行い、事業の周知・申請促進を図った。

#### ②市町村・学校への防災教育実践サポート

新潟県防災教育に関する総合窓口を中越防災安全推進機構の地域防災力センター内に設置し、小中学校や市町村等からの個別の相談や要望に対して原則すべて対応し、防災教育の実践活動を適宜サポートした。

教育委員会や学校、関係団体等からの依頼に応じ、教職員等を対象とした研修会の企画・運営、講師（職員）派遣などを実施した。



新潟市防災教育研修会



上越市教育委員会主催の研修

高等学校における防災教育の実践サポートを試験的に実施した（塩沢商工高校、長岡工業高等専門学校、白根高校）。

「新潟県防災教育プログラム」の在庫管理・提供、著作権に関する記載内容の更新を行った。

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### ③サポート団体及び教職員等のネットワークづくり

各学校における防災教育の実践を支援できる人材・団体、防災教育を牽引できる教職員や専門家を発掘し、関係性を構築することで、地域に密着した防災教育を継続的に支える連携体制づくりに取り組んだ。

#### ④防災教育研修会（教員研修会）の開催

一年間の各地域及び学校の実践事例を報告し、その成果を共有するとともに、防災教育の意識啓発、防災知識の習得及び指導スキルの向上を図るための研修会を開催した。

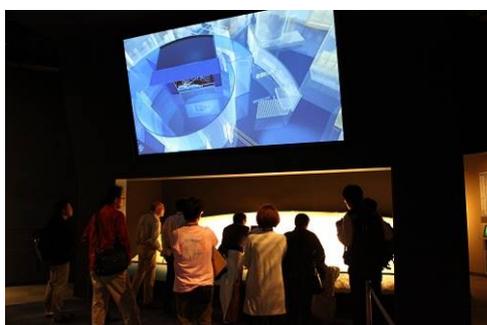
市町村・教育委員会の担当職員及び教職員を対象に、10月8日（土）、新潟県内小中学校教職員向け特別企画「私たちの川の恵み×巡る Love River Tour」（定員20名）を主催・実施した。参加人数は13名（機構職員4名含む）。



大河津資料館



三条市水防学習館



新潟市歴史博物館

ふるさと新潟防災教育推進事業 新潟県内小中学校教職員向け特別企画 第2弾

## 私たちの川の恵み×巡る Love River Tour

大河津資料館      横田切れ公園      三条市水防学習館

三条スライス研究所      新潟市歴史博物館

今年で横田切れから120年。日本一長い信濃川が流れる新潟県では、川による恩恵を受け、豊かな大地を育んできましたが、一方では、数多くの水害にも悩まされてきました。今回は、その信濃川の恵みを感じるとともに、多くの苦難を乗り越えてきた新潟県民のたくましさを感じることができるツアーを企画しました。ぜひ学校で、子どもたちの学びに還元していただけたいです。  
“自然と共に生きること” 一川の恵みを巡る Love River Tourで一緒に探ってみませんか？

■日 時／平成28年10月8日（土）8:00～16:00

■参加費／1,000円（ツアー保険料、資料代など）  
※その他、三条スライス研究所での昼食代がかかります。

■定 員／20名（先着順）  
■当日の行程、参加申し込みについては裏面をご覧ください。

【主催：公益社団法人中越防災安全推進機構】

私のご案内します。  
ガイド：徳口 隆 氏  
Love River Net 代表

私たちの川の恵み×巡る Love River Tourチラシ

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### ⑤新潟県防災教育の情報発信

ホームページ「防災スイッチ」を更新・運営した。

ふるさと新潟防災教育新聞として、2016春号（第3号）、2016夏号（第4号）、2017冬号（第5号）を発行した。



公式ホームページ「防災教育スイッチ」



ふるさと新潟防災教育新聞

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興

#### ⑥ 先行事例調査・ヒアリング

防災教育に関する県内外の先行事例を調査・視察・受講し、有識者や実務担当者と情報交換を行うことにより、新潟県における防災教育の実践促進及び質の向上を図った。



北海道庁にてヒアリング



みらいずworks 勉強会

#### ⑦ こども防災未来会議及び防災かべ新聞コンクールの開催

平成27年度に引き続き、NPO法人ふるさと未来創造堂、県関係各課等と連携の上、こども防災未来会議及び防災かべ新聞コンクールを協働で開催・運営した

こども防災未来会議の参加人数は、小学生24名、中学生9名、教育関係者21名、一般（保護者含む）74名、合計128名。防災かべ新聞コンクールは、作品募集8校1団体48点、11月13日審査会を開催して受賞作品を発表した。



防災かべ新聞コンクール作品展示



こども防災未来会議

#### ⑧ 防災教育コーディネーター（実践サポーター）の育成

本事業に携わるスタッフ3名を対象に、OJTにより防災教育コーディネーターの育成を図った。また、教職員、中越市民防災安全士、防災士、中越メモリアル施設各館スタッフ、市民団体スタッフ、社会教育施設職員等、合計45名（当初の定員は30名）を対象に、防災教育コーディネーター育成塾を開講した。

### Ⅲ. 防災安全情報・技術振興



防災教育コーディネーター育成塾

#### ⑨防災教育の効果を明らかにする研究会の設置

新潟県において防災教育の普及を図るため、防災教育の効果（アウトカム）を分析・把握するための研究会を設置し、合計4回開催した。また、3つのワーキングを設置して個別課題について検討した（学力向上分析WG、効果分類整理WG、プログラム効果測定WG）。

委員構成は以下のとおり。

群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター 准教授 金井昌信氏  
東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教 定池祐季氏  
長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 准教授 松田曜子氏  
新潟県魚沼市立湯之谷中学校 校長 五十嵐一浩氏  
新潟大学教育学部附属長岡小学校 副校長 松井謙太氏  
新潟県上越市立城北中学校 教頭 宮川高広氏



防災教育の効果を明らかにする研究会 会議風景

## IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

### 7. 首都圏プラットフォーム

首都圏に中越地方と関わるプラットフォームをつくることにより、中越地方の多様な担い手の育成を目的に事業を実施した。

#### ①日本全国地域仕掛け人市の実施

全国で活動する地域団体と連携してマッチングイベントを実施した。

参加者は400名以上で、今回所得した連絡先に引き続き情報発信を行っていく。



#### ②next inacollege meeting の開催

- ・東京のインターン参加者やインターン候補生とともにイナカレッジの次の展開や事業を考えるワークショップを開催した（参加者14名程度）



#### ③移住、交流フェアのトークセッション、ブースのコーディネート

総務省が主催する全国、移住交流フェアにおいてトークセッション「移住女子の暮らし。地方で暮らすということ。」及び、移住女子のブース出展を行った。

#### ④日本農業新聞座談会にゲストとして出席

日本農業新聞の特集「若者はなぜ農山村に向かうのか - 田園回帰の背景」でゲストとして出席し、イナカレッジの事業の紹介などを行った。

#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

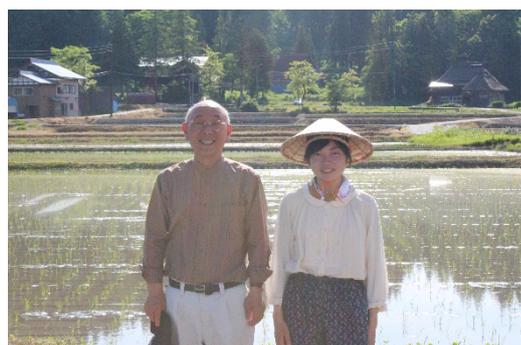
### 8. 長期インターンシッププログラム

#### (1) 平成 28 年度長期インターンシップの概要

平成 28 年度長期インターンシッププログラムとして、以下の地域および内容で実施した。

#### 【長期プログラム 6 地域】

受入地域	研修先	研修内容
柏崎市 (高柳町)	荻ノ島地域協議会	かやぶき景観を活用した地域づくり活動のサポート、ものづくり、郷土料理のレシピ化、情報発信、米づくりと直販、野菜づくり、かやぶきの宿の運営、など。
柏崎市 (高柳町)	門出・田代ベとプロジェクト	米づくり・野菜づくり・加工品開発・販売を通じた農業経営実習。楮栽培・紙づくりなど和紙工房の手伝い、など。
長岡市 (栃尾市)	下塩農産／越銘醸	夏は米づくり、冬は酒蔵で酒造り、日本酒造りのすべてを学ぶプログラム
十日町市 (川西)	千年の市じろばた	じろばた（直売所・加工所・食堂）のお手伝い、出荷農家のお手伝い、各種行事・イベント等のお手伝い、古民家再生、若手農家とのイベント、など
十日町市	NPO法人十日町市地域おこし実行委員会	米づくりおよび米の直販、畑づくり、ウェルネスツーリズムの企画・立ち上げ、その他地域おこし活動全般
十日町市 (松之山)	中立山・中原 懐かしい 22 世紀委員会	有機栽培による米づくり、野菜づくり、茅葺きの葺き替え作業、地域行事・イベントのお手伝い、など



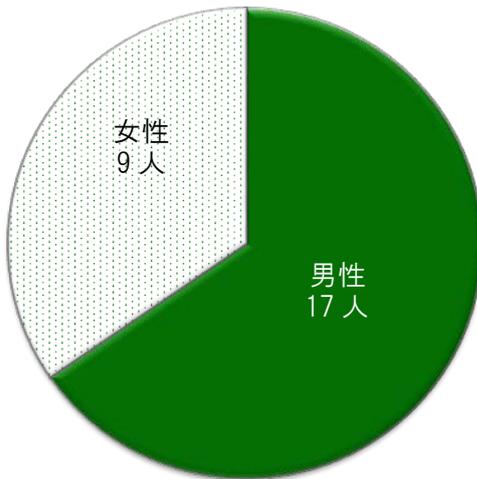
#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

##### (2) 長期プログラムへの参加申込状況

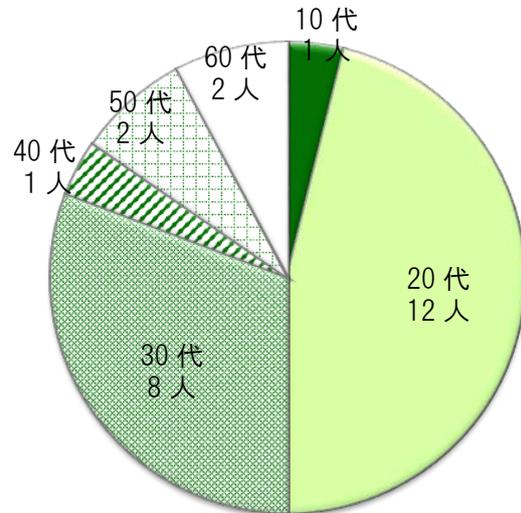
平成 28 年度の 1 年間の長期プログラム参加者 6 人の募集に対し、26 人からの参加申込が見られた。申込者の属性は以下のとおりである。

(平成 28 年度長期プログラム申込者の属性)

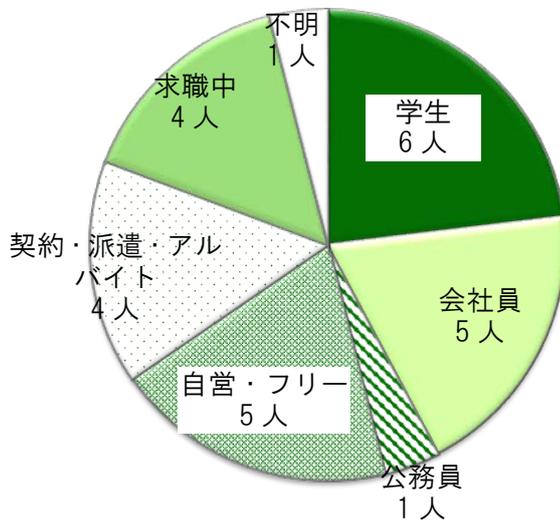
性別



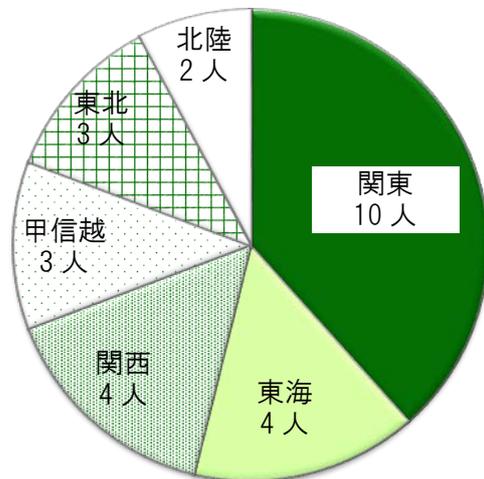
年齢



職業



住まい



#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

##### (3) 長期プログラム修了後の参加者の動向

平成28年度長期プログラム（1年）には6名の参加者が見られ、研修修了後は下表のとおりである。

	年齢	性別	住まい	職業	修了後
1	20代	女	埼玉県	求職中	定住) イナカフリーランス
2	20代	男	東京都	会社員	定住) 新規就農
3	20代	女	埼玉	宮城県	定住) バイト→地域おこし協力隊 (予定)
4	30代	男	愛知県	自営業	定住) イナカフリーランス
5	20代	女	大阪府	学生	定住) イナカフリーランス
6	40代	男	東京都	自営業	定住) 新規就農

##### (4) 平成28年度の長期インターンシッププログラムのまとめ

平成28年度の長期インターンシッププログラムとしては、平成27年度からインターン継続中の1名のほかに、8名を定員に募集を行った結果、26名の申込が見られた。しかし、書類選考やマッチング等を経た結果、5名の参加決定にとどまり、今年度は合計6名のインターン生が活動した。

インターン修了後は、インターン生6名全員がお世話になった地域に定住するという結果が得られ、イナカフリーランス、新規就農など、1年間活動する中で築いた地域の人たちとの関係性のなかで、自らの働き口や生活基盤を作り上げている。

##### これまでのイナカレッジインターンシップの参加状況

	参加者	定住者
平成24年度	4人	
平成25年度	4人	
平成26年度	8人	7人
平成27年度	8人	6人
平成28年度	5人	5人
合計	29人	18人

※H28年度参加者1名は、H27年度から研修を行っているため、H27年度の実績としてカウントしている。

#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

### 9. 新たなインターンシッププログラムの開発

新規インターンシッププログラムとして、大学生を対象とした短期（1ヶ月）プログラムを実施

#### (1) インターン生募集イベントの実施

##### ○東京会場

- ・日時：6月12日（日）13:30～17:00
- ・会場：AP 渋谷道玄坂
- ・内容：

インターンOGによるパネルトーク、インターンシップ受け入れ地域・企業プレゼンテーション、インターンシップ受け入れ地域・企業ブース相談会など



##### ○新潟会場

- ・日時：6月19日（日）
- ・会場：駅前オフィス
- ・内容：事業説明、個別相談会

##### ○長岡会場

- ・日時：6月18日（土）
- ・会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい
- ・内容：事業説明、個別相談会

#### (2) コーディネーター研修の実施

##### ○第1回 4月12日（火）10:00～12:00

- ・事業概要の説明

##### ○第2回 6月3日（金）14:00～17:00

- ・実践型インターンシップとは
- ・プログラム設計演習、参加者向け広報ツールの作成手法

##### ○第3回 11月14日（月）14:00～17:00

#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

・インターン実施振り返り



#### (3) インターンシップ実施地域一覧

地域	研修先	研修内容	参加学生
柏崎市 (高柳町)	荻ノ島地域協議会	「ずっと残したい、人生 80 年『お母さんの言葉を紡ぐ』プロジェクト」	大学生 2 名
長岡市 (川口町)	木沢集落	「百姓のナリワイを 100 箱の商品にプロデュース！」	大学生 3 名
新発田市	米倉集落	「地域の新しい賑わいを創出せよ！小学校跡地活用プロジェクト」	大学生 3 名
胎内市	胎内市観光協会	「カメラ女子×大学生～あなたと発信するたいないの魅力～」	大学生 3 名
長岡市	FARM8	「ローカル×クラウドファンディングが社会を変える！地域に新しい可能性を生み出すスタートアップ事業」	大学生 2 名
長岡市	割烹柳屋	「9 代目若女将・地元農家で作る、新しい料亭の味プロジェクト」	大学生 2 名
長岡市	柏露酒造	「創業 250 年・次世代の『カワイイ日本酒』創造プロジェクト」	大学生 3 名
長岡市	蓬平温泉	「越後の奥座敷・蓬平温泉『女子大生が作る女子会プラン』作成プロジェクト」PART2	大学生 3 名
新潟市	コメタク	「商店街とコミュニケーションする」新しい米屋づくりインターン	大学生 2 名

#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得



### 10. 「外部人材の確保・育成」に関する実践研究

(1) 中山間地域における女性の定住に向けた所得確保等の実践

中山間地域に移住してきた女性の所得確保や仕事づくりを目的に首都圏でのイベント開催や情報誌の発行を行った。

#### ①移住女子ウェブサイト、サロンの解説

移住女子と交流するオンラインサロンを開設した。現在会員は8名程度で引き続き移住女子の活動を発信していく。

#### ②全国移住女子サミットの開催

全国の移住した女性を集めて、地方での女性の暮らしを伝えるイベントを実施した。当日は60名参加した。



#### ③その他講演、寄稿、メディア出演など

書籍「移住女子」が新潮社から発売した。新潟県からも3名の移住女子が紹介されている。また新潟日報において、佐藤可奈子さんが連載を執筆している。

## IV. 地方の持続可能性の維持・獲得



### (2) 外部人材の確保育成

#### ① 第0回ネクストイナカレッジミーティング

○日時：12月3日(土) 13:00~17:00

○会場：十日町市民交流センター「分じろう」(十日町市)

○参加者：26名

○内容：

これまでのイナカレッジインターンシップ事業の振り返りと持続的なインターンシップ事業の構想説明と意見交換。



#### ② 第1回ネクストイナカレッジミーティング

○日時：2月6日(月) 15:00~18:00

○会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

○参加者：29名

○ゲスト：ササクラ レオ氏 一般社団法人いなかパイプ (高知県四万十市)

○内容：

・勉強会：「いなかパイプ」のいなかインターンシップの仕組みを学ぶ

「いなかビジネス教えちやる！インターンシップ(29泊30日)」や「いなかベンチャーインターンシップ(29泊30日)」など、地域の仕事を学ぶインターンを実践している同団体から地域の仕事への人材紹介・派遣の仕組みについて学ぶ。

・意見交換会：移住希望者が地域の仕事を学ぶための仕組みづくり

勉強会を踏まえ、地方での暮らしを求める移住希望者が、地域の仕事を学び、定着していくた

#### IV. 地方の持続可能性の維持・獲得

めの仕組みづくりについて検討します。



#### ③ 第2回ネクストイナカレッジミーティング

○日時：2月6日(月) 15:00~18:00

○会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

○ゲスト：中川 玄洋氏 NPO法人学生人材バンク代表理事(鳥取県)

○内容：

- ・勉強会：「学生人材バンク」の農村地域への人材派遣等の仕組みを学ぶ  
「農村16きっぷ」や「三徳レンジャー」、さらに農村地域のアルバイト紹介などを通じて、農村地域への若者の派遣を实践する同団体から、都市から農村への若者の流れ、地域の仕事への人材紹介・派遣の仕組みについて学ぶ。
- ・意見交換会：移住希望者が地域の仕事を学ぶための仕組みづくり  
勉強会を踏まえ、地方での暮らしを求める移住希望者が、地域の仕事を学び、定着していくための仕組みづくりについて検討します。



## V. 地域防災力向上支援業務

### 1 1. 地域防災まちづくりプログラム制作事業（新潟県）

新潟県内の各市町村における自主防災活動支援の先進事例や課題を収集・分析し、それらの発表の場等を通じて、市町村間での情報共有を図るとともに、その内容をまとめ、「地域防災まちづくりプログラム（平成 28 年度版）」を作成した。

具体的には、市町村防災関係課に対して、自主防災活動活性化に関する課題についてのアンケート調査を実施し、市町村職員を対象とした地域版「地域版防災交流会議」（上・中・下越で実施）において報告及び意見交換を行った。また、市町村が抱える課題の一つである防災士の活用に関して、魚沼市ならびに妙高市でモデル研修を実施し、その効果及び水平展開を図るための課題の検証を行った。その他、全県版「地域防災交流会議」では、先進事例やモデル事業の発表、グループワークの実施を通して、各市町村の取組の共有や情報交換を図った。以上の結果を「新潟県自主防災活動活性化の手引き」としてまとめ、県内市町村防災関係部局等に配布した。



### 1 2. 地域防災力強化支援事業（長岡市）

自主防災組織の意識啓発・育成を図り、自主防災活動の活発化と災害対応力の向上のため、自主防災活動アドバイザー派遣事業、防災活動事例発表会、さらに今年度より開始した防災講座インストラクター養成事業の 3 つの事業を実施した。

自主防災活動アドバイザー派遣事業は、防災活動を進めるにあたって課題を抱えている自主防災会や町内会を対象に、自主防災活動アドバイザーを派遣する取組であり、地域の課題や活動レベルに合わせたアドバイスやワークショップを実施した。派遣実績は、12 地域・30 回にのぼり、防災マップの作成支援、平日日中の防災訓練、クロスロード手法を用いた防災ワークショップなどを実施し、アドバイザーとして継続的に地域に関わることで、地域防災上の課題解決に一定の成果を上げた。

防災活動事例発表会は、長岡市内の自主防災会活動事例の発表の場を設け、それぞれの活動に活かしてもらおうことを目的として、平成 24 年度より長岡市及び中越市民防災安全士会との共催で開催しているものであり、以下のとおり、秋・春の 2 回開催し、多数の参加者を得て、有意義な意見交換が行われた。

○第 6 回防災活動事例発表会 平成 28 年 9 月 10 日  
参加者約 250 名 リリックホールにて

○第 7 回防災活動事例発表会 平成 29 年 3 月 4 日  
参加者約 320 名 リリックホールにて

また、平成 28 年度より、地域で災害食についての防災講座を実施することができる地域防災講座インストラクター養成講座を開講し、9 名の修了生を輩出した。今後の地域での活躍が期待される。



## V. 地域防災力向上支援業務

### 1 3. 避難所運営体制連絡会（検討会）運営委託業務（新潟市）

災害時の避難所運営を円滑に行うためには、地域住民（自主防災組織、コミュニティ協議会等）、施設管理者、行政職員の三者の協力が不可欠であり、事前に運営方法について三者で共通認識を持つこと、顔の見える協力体制を築いておくことが重要となる。

本業務は、平成 26 年度より新潟市で実施され、これまでに避難所のレイアウトや役割分担などについて検討を実施してきたが、今年度は実際の災害時の避難所運営委員会のシミュレーションを通して、平常時からの備えを考えることで、避難所運営能力の向上を図った。なお、対象避難所は、中央区を除く 7 区的全避難所（311 避難所）であり、区ごとに検討会を開催・運営した。

区	避難所数	開催回数
北区	43	3
東区	29	1
江南区	34	3
秋葉区	57	3
南区	48	6
西区	37	3
西蒲区	63	4
計	311	23



### 1 4. わが家の防災力向上事業（新潟市東区）

平成 25 年度の新潟県津波浸水想定を受け、「東日本大震災で起こった被害は新潟市でも起こりうる」ということを強く意識した対策が必要であり、津波による人的被害を軽減するためには、一人ひとりの迅速かつ主体的な避難行動が重要である。また、水害による人的被害（直接死、関連死）を減らすためには、的確な避難判断と行動に加え、避難者主体の避難所運営体制づくりが重要となる。

本業務では、住民が自分や家族の命を守るために、地震や津波、洪水発生時及び避難生活において、どのようなことが起こり、どのような対応が必要かを学ぶことで、自分の家庭や地域において何を備えておいたら良いかを検討する「わが家の防災力向上事業」を実施した。



## V. 地域防災力向上支援業務

No	日程	自治会名	場所	参加者数
1	6月12日(日)	東中野山みなみ自治会	猿ヶ馬場自治会館	62人
2	6月18日(土)	東中野山ひがし自治会	猿ヶ馬場自治会館	70人
3	6月19日(日)	むつみ自治会	シルバーピア石山	119人
4	7月23日(土)	岡山第二自治会	東中山コミュニティハウス	30人
5	8月28日(日)	新潟市木戸地域防災会	新潟市立竹尾小学校	44人
6	9月10日(土)	南中野山コミュニティ協議会	石山南まちづくりセンター	36人
7	9月17日(土)	東中野山コミュニティ協議会	東石山コミュニティハウス	50人
8	10月2日(日)	山の下地区自主防災会	新潟市立山の下小学校	38人
9	10月30日(日)	レジデンス南紫竹自治会	レジデンス南紫竹集会所	30人
10	11月6日(日)	下山コミュニティ協議会 自主防災部会	下山コミュニティハウス	50人
11	11月13日(日)	宝町防災会	宝町町内会館	32人
12	12月10日(土)	山の下臨港町内会	山の下臨港町内会集会所	13人

### 15. IoTを活用した地域防災システムに関する実証実験試行及び検証業務

(防災科学技術研究所からの委託業務)

本業務は、防災科学技術研究所が計画する『「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ』(以下、気象ハブ)の構築に資するため、日本国内の自然条件や社会条件を踏まえた上で、モデルとなる地域を選定し(長岡市を選定)、どのような気象災害予測技術の開発及び普及が望まれているのか、地域防災力を強化するためにどのようなシステムを組み立てればよいのか、自治体や地域社会にどのような効果をもたらすのかといった基本課題について具体的に調査・検討した。

また、研究者、民間技術者、防災専門家、コーディネーター、地域住民による連携の下、積雪重量測定、水位センサー、安否確認システム、センサースコップ、路面管理アプリといった5つのテーマに関する実証実験を行い、その有効性と可能性を明らかにした。



## VI. 地域づくり活動支援業務

### 16. 移住者受入トップランナー支援事業【新潟県新潟暮らし推進課】

県内各地域における移住者受入態勢づくりを推進するため、移住者の受入活動に熱意のある地域住民等を対象に「移住者受入人材育成研修会」等を開催し、移住者を受け入れるために必要な考え方、知識・ノウハウを習得し、移住者受入の機運づくりと新潟県全体の受入態勢の充実を図ることを目的に実施する。

#### <実施内容>

##### ① 県内自治体等事前ヒアリング

移住者受入に取り組もうとする7地域・自治体等にヒアリングを行い、現状の課題や問題認識などを把握し、これをもとに研修プログラムを企画・構築。

##### ② 講義・ワークショップ

地域	プログラム
関川村 7/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義「移住者を受け入れる目的と、受入にあたって地域では何が必要か」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・山本 浩史（NPO 法人十日町市地域おこし実行委員会 代表）</li> <li>・森 孝寿（イナカレッジ インターン生）</li> </ul> </li> <li>◆参加者意見交換</li> </ul>
胎内市 築地地区 10/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義「地方移住をめぐる現状と課題」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵩 和雄（認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長）</li> </ul> </li> <li>◆参加者意見交換「築地地区にとって必要な移住者像と受入体制を考える」</li> </ul>
南魚沼市 11/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義「地域で移住者を受け入れる意義」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・小林 茂和（富山県朝日町笹川集落 自治振興会長）</li> </ul> </li> <li>◆移住者トークセッション               <ul style="list-style-type: none"> <li>・寺尾 卓也（移住者）</li> <li>・矢野 容子（移住者）</li> <li>・荒川 孝市（中之島地区まちづくり協議会 事務長）</li> <li>・関 文治（浦佐地域づくり協議会 事務長）</li> </ul> </li> <li>進行：金子 知也（にいがたイナカレッジ事務局）</li> <li>◆質疑・意見交換</li> </ul>
村上市 朝日地区 11/27	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義「移住者を受け入れる。地域おこし協力隊を受け入れる」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺 隆（魚沼市横根集落区長）</li> </ul> </li> <li>◆講義「地域の一員としての暮らし。地域おこし協力隊としての活動」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野 久美子（魚沼市地域おこし協力隊）</li> </ul> </li> <li>◆質疑応答（ディスカッション）</li> </ul>

## VI. 地域づくり活動支援業務

地域	プログラム
湯沢町 12/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講演「地域の空き家 活用術」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵩 和雄（認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長）</li> </ul> </li> <li>◆意見交換「今、皆さんの地域の空き家で困っていることは何？」</li> </ul>
関川村 1/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講演「外部人材・地域おこし協力隊の役割」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿部 巧（公社 中越防災安全推進機構ムラビト・デザインセンター長）</li> </ul> </li> <li>◆「地域おこし協力隊の実際」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 坂上 良夫（胎内市坂井集落住民）</li> <li>・ 林 基宜（胎内市地域おこし協力隊坂井集落）</li> <li>・ 若津 絵美（胎内市地域おこし協力隊鯉江集落）</li> </ul> </li> <li>◆質疑応答・意見交換</li> </ul>
新発田市 2/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義「『移住者を受け入れる』とは？」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金子 知也（I ターン留学『にいがたイナカレッジ』）</li> </ul> </li> <li>◆トークセッション「受入地域のホンネ」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行：金子 知也</li> <li>第一部【実践地域編】                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤谷地区</li> <li>・ 板山地区</li> </ul> </li> <li>第二部【これから取り組む地域編】                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上三光集落</li> <li>・ 米倉集落</li> <li>・ 中々山集落</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◆参加者意見交換</li> </ul>



## VI. 地域づくり活動支援業務

### 17. にいがたライフスタイルカフェ【新潟県新潟暮らし推進課】

「にいがたライフスタイルカフェ」とは、新潟で自分らしいライフスタイルを実現している先輩を招いてトークセッションとワークショップを行い、これからの暮らし方について考える会です。

#### ■VOL.1 移住夫婦の暮らし方

○日 時：6月1日（木）19：00～20：45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター5F

○参加費：無料

○参加者：30名（男性17名、女性13名）※定員：40名      うち新潟県出身者 5名(16%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト：阿部 巧（にいがたイナカレッジ）、栗原 里奈（移住女子）、佐々倉愛（NPO 法人 EYES）、佐々倉 玲於（一社 いなかパイプ）、山本 絵美（NPO 法人 ETIC）



#### ■VOL.2 ローカルビジネス

○日 時：7月28日（木）19：00～20：45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター5F

○参加費：無料

○参加者：32名（男性20名、女性12名）※定員：40名  
うち新潟県出身者 4名(12%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト：渡邊 紗綾子（カフェ渋い）、水柿 大地（みんなの孫プロジェクト）  
林 篤志（合同会社パラミタ）、モデレーター 日野 正基（にいがたイナカレッジ）



## VI. 地域づくり活動支援業務

### VOL.3 移住だけじゃない地方とのかかわり方

○日 時：9月28日（木）19：00～20：45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター8F

○参加費：無料

○参加者：36名（男性20名、女性16名）※定員：40名 うち新潟県出身者 4名(11%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト 鈴木 博之（ニイガタ移住計画）、川口 枝里子（株式会社DKdo）

森山 明能（七尾自動車学校）、モデレーター 日野 正基（にいがたイナカレッジ）



### ■VOL.4 地域をコーディネートする仕事

○日 時：12月1日（木）19：00～20：45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター8F

○参加費：無料

○参加者：23名（男性13名、女性10名）※定員：40名 うち新潟県出身者 4名(17%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト 中川 玄洋（NPO 法人学生人材バンク）、伊東 将志（株式会社熊野古道おわせ）

日野 正基（にいがたイナカレッジ）、モデレーター 長谷川 奈月（NPO 法人ETIC）



### ■VOL.5 食を仕事にする暮らし

○日 時：2月1日（水）19：00～20：45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター8F

○参加費：無料

○参加者：29名（男性15名、女性14名）※定員：40名 うち新潟県出身者 5名(17%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

## Ⅵ. 地域づくり活動支援業務

○ゲスト：刈屋 高志(刈屋さんちの安心野菜)、前田聡子 (くらして)

○モデレーター：日野 正基 (にいがたイナカレッジ)



### ■VOL.6 新しい働き方

○日 時：2月1日(水) 19:00~20:45

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター8F

○参加費：無料

○参加者：19名(男性9名、女性10名) ※定員：40名 うち新潟県出身者 3名(16%)

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト：西村 治久(ギルドハウス十日町)、マツモト メグミ(Legolis design and planning)

矢部 佳宏(西会津国際芸術村)、モデレーター：日野 正基(にいがたイナカレッジ)



## 18. 移住相談員設置業務【新潟県新潟暮らし推進課】

本業務は、新潟県への移住・定住の促進を図るため、首都圏における移住相談機能を強化するため、認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センターに相談員を配置し、地方暮らしに興味のある都市住民への対応を図るものである。

### <実施内容>

#### ① にいがた暮らしコーディネーターの募集・採用および人材育成

公募の結果、中越防災安全推進機構の社員として、平成 28 年 5 月から 23 歳女性をにいがた暮らしコーディネーターとして採用し、新潟相談ブースが開設する 7 月まで新潟県内で研修を行った。

## VI. 地域づくり活動支援業務

### ② 新潟相談ブース『ココスムにいがた』の開設・運営

平成27年7月の新潟相談ブース『ココスムにいがた』の開設に伴い、東京での移住相談対応等の業務を開始し、日常的な窓口の運営、新潟県が主催するにいがた暮らしセミナーや各市町村が主催するイベントなどのサポート業務にあたっている。

## 19. 新潟県地域おこし協力隊研修業務【新潟県地域政策課】

本業務は、新潟県内の「地域おこし協力隊員」を対象として、初任者向け、定住意向者向けに、その活躍の場を広げてもらうため、初任者及び定住準備等のための研修を実施する。

### <実施内容>

#### ① 初任者研修

○日程：6月27日（月）13:00 ～ 28日（火）12:00

○会場：メイワサンピア（新潟市西区赤塚4627-1）

○参加人数：36名

○内容：

- ・【講義】「全国の地域おこし協力隊の動向」 稲垣文彦（中越防災安全推進機構）
- ・【講義】「地域おこしとは」 多田朋孔（十日町市地域おこし実行委員会）
- ・【講義】「地域おこし協力隊の活動ステップ」 小山友誉（十日町市地域おこし実行委員会）
- ・【ワーク】自らの活動環境を共有する
- ・【ワーク】課題検討

#### ② 定住サポート研修

○日時：11月10日（木）～11日（金）

※オプションツアーとして現地視察 11日（金）13:00～15:00

○場所：十日町市市民交流センター「分じろう」

○参加人数：11名

○内容：

- ・【講義】「定住に向けた心構えと考え方（十日町市地域おこし実行委員会）」
- ・【講義】「事例報告」 3名
- ・【ワーク】「住に向けた現状整理と意見交換」
- ・【ワーク】「（個人ワーク）今後のロードマップ（活動展開図）の作成」
- ・【ワーク】「（グループワーク）ロードマップのグループ共有」
- ・【現地視察】現地視察 十日町市東下組

## VI. 地域づくり活動支援業務



### 20. 移住者受入モデル事業コーディネーター業務【新発田市】

本事業は、移住や交流などを通じて、これまで地域外の人材の受け入れを行っていない集落・地域等に対して、モデル的に数日～数週間程度のツアーやインターンシッププログラムの開発および実施を通じて、移住促進にかかる集落・地域の機運を醸成していくことを目的に実施するものである。

#### <実施内容>

- ① 新発田市の魅力を発信するツアーの開催（おおむね2回程度）

地方で楽しく暮らす人たち  
巡り旅  
新潟県 新発田市

田舎で自分らしく生きる  
ライフスタイルを覗いてみよう

お一人様 **5,000円**  
(小学生以下 3,000円)

※参加費には、全行程の宿泊と食事、移動費が含まれます。  
※集合場所までの交通費は自己負担となります。

日程 2016年8月20日(土) - 21日(日) ※応募締切 8月15日(月)

定員 5名程度 開催場所 新発田市内の空き家 (申し込み受付: 7月25日先着順)

申込方法 住所・氏名・連絡先電話番号・参加人数を記載の上eメール、又は電話でお申し込みください。

主催: 新発田市、(一社)新発田市観光協会 TEL: 0254-22-3101 (内線 1358) e-mail: teiryu@city.shibata.lg.jp

地方で楽しく暮らす人たち  
巡り旅  
新潟県 新発田市

～就農編～

田舎で自分らしく生きる  
ライフスタイルを覗いてみよう

お一人様 **5,000円**  
(小学生以下 3,000円)

※参加費には、全行程の宿泊と食事、移動費が含まれます。  
※集合場所までの交通費は自己負担となります。

日程 2016年11月26日(土) - 27日(日) ※応募締切 11月18日(金)

定員 5名程度 開催場所 市内の短期滞在施設「新緑」(先着順・定員に達し次第、募集を締め切ります)

申込方法 住所・氏名・生年月日・連絡先電話番号・参加人数を記載の上eメール、又は電話でお申し込みください。

主催: 新発田市、(一社)新発田市観光協会 TEL: 0254-22-3101 (内線 1358) e-mail: teiryu@city.shibata.lg.jp

## VI. 地域づくり活動支援業務

### 【開催概要】

○地方で楽しく暮らす人たち巡り旅

日時：2016年8月20日(土)・21日(日)

募集定員：5名 / 参加者：6名

宿泊場所：新発田市米倉集落 短期滞在施設『新縁』

○地方で楽しく暮らす人たち巡り旅～就農編

日時：2016年11月26日(土)・27日(日)

募集定員：5名 / 参加者：6名

宿泊場所：新発田市米倉集落 短期滞在施設『新縁』



### ② 短期インターンシップ事業の実施

#### 1) インターン実施の背景と目的

米倉集落を含む9つの集落の子ども達46人が通う米倉小学校。しかし、児童数の減少によって平成30年3月に閉校することが決定された。米倉では、遊休施設となる小学校の利活用方法について、これからから本格的な議論を進めていくことになった。

今回のインターンシップは、住民の人たちの想いやニーズを把握し取りまとめ、併せて他地域の事例などを調べながら、米倉の実情にあった小学校跡地の利活用プランを立案・提案することがミッションとなる。

小学校がなくなるということは、地域のアイデンティティが一つ無くなることを意味する。小学校という地域の拠点は無くなるが、それに代わる新しい米倉のアイデンティティ・賑わいとなり得る利活用プランをインターン生に考えていただく。

#### 2) インターンの成果目標

○米倉の住民の想いを汲み取った米倉らしい小学校の利活用プランを立案し、提案すること。

○地域行事への参加、農作業などを通じてたくさんの人と会話し、地域住民のニーズをまとめること。

○インターン生が一生懸命取り組むことで、地域の中で小学校の利活用の議論の機運を高めること。

#### 3) 得られる経験（参加者から見て）

○少子高齢化が進むことで起こる農村問題を、現場で直感視することができる。

○地域のたくさんの人たちと関わり、意見などを聞き取るためコミュニケーション能力や対人スキルが身に付く。

#### 4) インターンの活動内容

【STEP1】米倉のことを知る・地域資源を見つける！

—最初の1週間は、地域のことを知る期間である。集落歩きや米倉最大のイベント夏祭

## VI. 地域づくり活動支援業務

りなどに参加し、住民の皆さんとの関係性を育みながら、米倉の良いところを発見していただく。

### 【STEP 2】 廃校利活用のイメージを膨らませる！

—2 週目には県内の学校跡地利用の視察研修を行う。インターン生の皆さんに米倉小学校の利活用のイメージを膨らませていただく。

### 【STEP 3】 地域の人たちの想いを把握する・まとめる

—2 週目～3 週目にかけては、集落行事や農作業などを通じて、多くの住民の方と会話し、その中で住民の皆さんから、米倉への想い、小学校統廃合に対する意見などを聞き取っていただく。

### 【STEP 4】 提案内容をまとめ、地域の人たちにプレゼン＆ブラッシュアップ！

—インターン生の皆さん自身で、米倉小学校の利活用プランをまとめていただく。提案内容を地域の皆さんに発表し、意見をいただきながらさらにブラッシュアップを図る。

### 【事前課題】

—全国の学校跡地利用の事例のうち、「これは、素晴らしい！」と思う事例3つをピックアップおよびその理由も併せて。

## 5) 実施期間

2016年8月10日～9月9日

※集落住民とインターン生が自然に交流しやすい環境をつくるため、滞在拠点となる米倉集落の夏祭りが8月15日に開催されることから、その準備等からインターン生が参加できるように上記日程とした。

## 6) 参加者

- ・大学4年生（22歳）／女性／大阪府
- ・大学2年生（19歳）／男性／東京都
- ・大学2年生（19歳）／女性／群馬県



## VI. 地域づくり活動支援業務



### 21. 新発田市 地域おこし協力隊導入コーディネート業務【新発田市】

本業務では、新発田市の地域おこし協力隊員の募集及び、事業実施地域のサポートを行うものである。

#### ①地域おこし協力隊員と受入地域のコーディネート業務

##### ■集落ヒアリングの実施

○目的：募集要項策定のための集落ヒアリング

○日時：2016年7月4日（月）

○対象：上三光集落

○内容：  
・上三光集落が地域おこし協力隊に求める役割  
・役割から導き出される人物像

##### ■集落ヒアリングとインタビューの作成

・「素直に受け入れる、じっくり向き合う」-新発田市地域おこし協力隊-

・「みんな上三光での暮らしを楽しんでいるよ」-新発田市地域おこし協力隊-渋谷杉衛（すぎえい）さん

・「若い人たちがいたから、自然と世代交代できた」-新発田市地域おこし協力隊-渋谷淳さん

・「上三光はこの辺りで一番子どもがいるんですわ。住みやすい。」-新発田市地域おこし協力隊-鈴木洋輝さん

## VI. 地域づくり活動支援業務

- ・「価値のないところから、宝を」-新発田市地域おこし協力隊-渋谷一也さん
- ・「自然と自分の体に身につけているんだね」-新発田市地域おこし協力隊-鈴木和男さん
- ・「出る杭を打たない。打ったら終わりだから。」-新発田市地域おこし協力隊-藤間昇さん
- ・「農村で暮らす人は、賢い」-新発田市地域おこし協力隊-小柳繁さん
- ・「自分が作ったものだから、愛着がね」-新発田市地域おこし協力隊-倉島寿雄さん

### ②隊員の募集事務業務

#### ■イナカレッジ HP での発信



#### ■JOIN移住交流&地域おこしフェアへの出展

日時 2017年1月15日(日) 10:00~17:00 開場 東京ビッグサイト 西2ホール  
主催 JOIN(一般社団法人移住・交流推進機構)、総務省 出展数 約450団体

#### ■日本全国!地域仕掛け人市への出展

日時 2016年10月29日(土) 10:00~17:00 開場 EBIS303  
主催 日本全国地域仕掛け人市実行委員会 出展数 約30団体



## VI. 地域づくり活動支援業務

### 22. 「(仮称)片品村交流連携拠点」開業支援業務【群馬県片品村】

本業務は、村中心地区に開業予定の「片品村交流連携拠点」の整備に向け、基本計画の見直しや設計の監修など、ハード面のサポートを行うとともに、施設の中核となる農産物直売所の開業に向けた勉強会の開催、出荷者組織設立に向けた準備および生産者との協議等を支援することを目的に実施するものである。

#### <実施内容>

- ① 整備計画・事業計画の見直し  
平成27年度に定めた仮設計をもとに、地域住民および関係者の意向等を踏まえた整備機能、整備場所の見直し、およびこれに伴う設計者との協議、設計監修
- ② 各種会議等への出席  
検討委員会および準備会等への出席、必要に応じて資料提供、など
- ③ 出荷者確保・組織化に関すること  
施設整備にともなう地域の機運づくり、出荷者確保等を目的とした講演会の開催、出荷者組織設立発起人会の開催・運営の支援、資料作成、など
- ④ その他関連する業務  
その他、本業務を遂行するために必要となる業務

### 23. 花咲地区農地利活用可能性調査実施業務【群馬県片品村】

本業務は、片品村花咲地区・牛の平地区の農地約15haを対象に、片品村が平成30年度～32年度にかけて土地改良事業を行うにあたり、地権者や村内農業者などの意向を把握するとともに、全国的な農業が取り巻く環境などを勘案した土地利用構想を定めることを目的に実施するものである。

#### <実施内容>

- ① 片品村内の調査
  - ・牛の平地区の現地調査
  - ・片品村農業に関わる文献調査
  - ・花咲地区および認定農業者アンケート調査
  - ・認定農業者、地域住民、関係者ヒアリング
  - ・仮説の設定
- ② 市場調査
  - ・仮説にもとづく全国動向調査
  - ・事例調査

## VI. 地域づくり活動支援業務

- ③ 土地利用構想の策定
  - ・土地利用構想の企画・立案
  - ・事業主体の可能性検討
- ④ その他関連業務
  - ・打ち合わせ、会議等への出席
  - ・調査報告書のとりまとめ
  - ・その他、本業務を遂行するために必要となる業務

### 24. 胎内市地域おこし協力隊フォローアップ業務

本業務は、胎内市地域おこし協力隊員の平成28年度の活動を総括し課題の抽出、改善策の検討を行い、活動のさらなる充実を図る事を目的に、関係者へのヒアリングを行った上、提案書の作成を行う。

#### <実施内容>

- ・地域おこし協力隊2名及び、受け入れ集落代表者2名、市役所担当者1名のヒアリング実施
- ・「胎内市地域おこし協力隊事業に関する提案書」の作成

### 25. おぐる地区将来ビジョン作成業務

本業務は、上越市安塚区おぐる地区の将来ビジョンを策定するための、ワークショップや視察研修の企画、実施を行うものである。

#### <実施内容>

- ・将来ビジョンワークショップに向けた関係者打ち合わせ・企画
- ・ワークショップの実施
- ・視察研修の企画・実施
- ・最終報告会の実施

